

孟德斯鳩著  
何禮之重譯  
**萬法精理**  
第七冊卷三

54058

編譯者：何禮之校  
(學校圖書館)

分類號	54058	號
社 會 科 學 門		
法 律 法 學 部		
總 記 載 書 項		
全 冊 數	18	冊
分 冊 數	17	冊
分 冊 號	320.8	號

T1A1

23

Ka11ba



a 1 3 8 0 3 2 2 6 4 4 a

福岡教育大学蔵書

萬法精理第十七冊目次

卷之三十 佛朗克人ノ封建制ノ原理

第一回 封建制

第二回 封建制ノ淵源

第三回 受封ノ臣ノ根元

第四回 全上

第五回 佛朗克人ノ侵畧ヲ論ス

第六回 義特人、不爾艮人、佛朗克人ヲ論ス

第七回 土地分割ノ諸方法

第八回 全上

第九回 土地分割法ニ關涉セル不爾艮人、西義特

萬法精理

孟德斯鳩著  
何禮之重譯

明治九年  
一月刻成

何氏藏版

人ノ法律ヲ適用スルヲ

第十回 奴隸制ヲ論ス

第十一回 全上

第十二回 諸蕃民ニ属スル土地ニ納租ノ義務ナ

キヲ論ス

第十三回 佛朗克人ノ建立セル王國ニ於テ羅馬

人、高盧人カ租税ヲ貢納セシヲ論ス

第十四回 佛朗克人ノ所謂「センシユス」税ヲ論ス

第十五回 センシユス税ハ奴隸ニ限リテ之ヲ徴

收シ絶テ自主民ニ賦課セサルヲ論ス

第十六回 封田ノ主公即チ受封ノ臣ヲ論ス

第十七回 自主民ノ兵役ヲ論ス

第十八回 復役ノ法ヲ論ス

第十九回 諸蕃民ノ私和金ヲ論ス

第二十回 後世ニ所謂主公ノ裁判權ヲ論ス

第二十一回 寺院ノ領地裁判權ヲ論ス

第二十二回 裁判權ノ設立ハ第二朝ノ滅亡前ニ在

ルヲ論ス

第二十三回 アッペ、ド、ボスノ著述ナル高盧地方佛

人ノ建國紀ノ大意ヲ論ス

第二十四回 全上 著述ノ要領ヲ論ス

第廿五回 佛朗克人ノ貴族ヲ論ス

萬法精理卷之三十

何 禮之 譯

立君國ノ建設ニ關涉セル佛朗克人ノ封建制ノ  
原理

第一回 封建制

予若シ將來絶テ再燃ノ勢ヲ有セサル事件ヲ默シテ語  
ラス又毫モ旧法故例ニ關係ヲ有セス突然歐羅巴ニ出  
現シ而モ無限ノ利ヲ來シ無限ノ害ヲ生シタル法律ヲ  
講セス又封田讓與ノ後モ尚ホ一定ノ權理ヲ存シ同一  
ノ物、同一ノ人ニ勝ル所ノ主權ヲ一定ノ人ニ授ケテ君

權ノ全部ヲ減殺シ、諸限度ヲ立テ帝國ノ廣大ニ過キルヲ節制シ而シテ無政ノ形況ニ傾カントシテ却テ規律ノ確立スルヲ觀シ治平ニ歸向セントシテ却テ無政ノ境ニ陷リタル法律（按）以上皆ナ封建（按）以上皆ナヲ論述セサルハ則チ此ノ著撰ノ全豹ヲ見ル可ラス然レモ之ヲ充分論究スルニハ自ラ一書ヲ成スモ未タ説キ盡スニ至ラス故ニ此著撰ノ趣旨ニ由リテ讀者ノ爲メニ其ノ概畧ヲ記スヘシ

封建制ハ甚タ美觀ヲ呈シテ其狀恰モ數百年ヲ經タル老櫟樹ノ高ク雲霄ニ聳エ之ヲ遠望スレハ唯タ枝葉蓊鬱トシテ垂天ノ雲ニ等シキヲ視歩ヲ進テ近接スレハ

樹幹ノ勁雄ナルヲ目撃スルノミニテ其根本ヲ看ル可ラサルカ如シ之ヲ發見スルニハ必ス土壤ヲ掘開セサレハ能ハス

## 第二回 封建制ノ淵源

羅馬帝國ヲ攻滅セシハ日耳曼人ナリ此人民ノ風俗ヲ記セシモノ古ヨリ其ノ人ニ乏シカラスト雖モ就中該撒多西高氏ノ記事ヲ以テ最モ實録信ヲ置クニ足レリトス即チ該撒ハ親ラ日耳曼人ヲ征伐シテ其ノ風俗慣習ヲ記シ之ニ應シテ軍畧ヲ運算セリ然レハ則チ該撒ノ記事ハ全ク實踐親歷ニ成ルモノニシテ其數葉ハ自餘ノ記者ノ一部書ニ相當スヘシ

多聖モ亦タ日耳曼人ノ風俗紀一部ヲ著述セリ該書ハ短簡ノ一小冊ナリト雖モ能ク一見ノ下ニ事物ノ要領ヲ撮取セリ

右二氏ノ記事ハ從頭至尾今日ニ遺存スル諸蕃民ノ法律ト全ク符節ヲ合スルカ如シ故ニ該撒多西土ノ著書ヲ繙ケハ諸蕃民ノ法典ヲ見ルノ心地アリ此ノ法典ヲ讀メハ恰モ兩氏ノ風俗紀ヲ閱スルノ思想ヲ生ス故ニ封建制ヲ究ムルノ途上誤テ岐路ニ迷フアルモ此ノ二書ヲ手ニシテ導線トスルキハ自カラ通路ニ出テ前進スルヲ得可シ

第三回 受封ノ臣ノ根元

該撒曰ク日耳曼人ハ耕種ノ事ニ盡力セス概シテ乳酪及ヒ肉類ヲ常食ニ供ス一人トシテ已カ土地ヲ所有スルモノナシ各部落ノ君長隨意ニ土地ヲ諸人ニ分配シ而シテ次年ニ至レハ命シテ之ヲ去リテ他所ニ遷徙セシムルヲアリ多西土曰ク各君長ニハ許多ノ從士アリテ左右ニ服事シテ始終其ノ命令ヲ聽ク多西土ハ右從士ノ身分ヨリ其ノ國語ヲ以テ伴侶ノ稱ヲ下セリ而シテ右從士ハ各自相競フテ勉強シ以テ君長ノ恩顧愛重ヲ得ンヲ希望シ君長モ亦タ其ノ伴侶ノ武勇ト衆多ナルトニ由テ勢威ヲ顯ハサンニ注意シテ之ヲ優待ス又曰ク君長ノ威名權力ハ全ク其ノ恆ニ俊秀ナル多士ヲ網羅

スルヨリ成立スルモノニテ治平ノ時ニハ之ヲ以テ尊  
 嚴ノ位望ヲ裝飾スルノ文物トナシ戰時ニ在テハ恃テ  
 干城ノ要具ト爲セリ故ニ若シ伴侶ノ數甚タ多ク加フ  
 ルニ其ノ武勇自餘ノ君長ニ超絶シテ濟々多士ノ名望  
 四方ニ聞ユルギハ隣國ヨリ貢物ヲ獻シ使臣ヲ遣スモ  
 ノ絡繹トシテ断エス若シ兵端ヲ開クアルモ威名素  
 ト著シキニ由テ未タ鋒ヲ交ヘスシテ勝敗ノ勢已ニ決  
 スルヲ往々之アリ又君長ハ武勇ノ他人ニ及ハサルヲ  
 大辱ト爲シ從士ハ君長ノ苦戰ヲ坐視シテ俱ニ死セサ  
 ルヲ永世不白ノ汚辱ト爲スヲ以テ一身ヲ抛テ君長ヲ  
 捍護スルヲ第一ノ義務トス且又我カ居城ノ地平和ニ

シテ無事ニ苦シムキハ君長ハ故ラニ戰爭アル地方ニ  
 赴キテ應援シ以テ多數ノ從士ヲ扶持スルノ資トス而  
 ノ君長ヨリ從士ニ賜フ所ノモノハ戰馬利鎗ニ止マリ  
 之ニ粗糲ノ食料ヲ充ルニ供給シテ其ノ食禄ニ充ス斯  
 ク君長ハ特リ戰鬪搶刼ニ從事シテ多數ノ從士ヲ養フ  
 ヘキヲ以テ君長タルモノハ爲メニ之ヲ謀ルニ部下ノ  
 人民ヲ勸メテカヲ耕業ニ盡シ或ハ家業ヲ經營セシメ  
 シヨリハ寧口之ヲ慙患シテ攻戰ノ危險ヲ冒サシムル  
 ノ迫カニ容易ニシテ所得アルニ若カサルヘシ約シテ  
 之ヲ言ヘハ日耳曼人ハ苟クモ血ヲ流シテ物ヲ獲ルニ  
 慣ル、ヲ以テ汗ヲ滴シテ之ヲ得ルノ事業ハ決シテ欲

セサルナリ

據此觀之曰耳曼ニハ既ニ臣屬アレモ未タ封田ノ制ナ  
キヲ見ル可シ是レ一ハ君長タルモノ更ニ割與スヘキ  
土地ヲ有セス一ハ封田ノ代リニ戰馬兵仗ヲ頒賜シ或  
ハ之ヲ宴饗シタルニ由レリ而ノ封田ナキニ臣屬アリ  
ト謂フ所以ハ蓋シ當時ニ在リテ已ニ忠勤無二ノ誓ヲ  
立テ君長ニ戰場ニ跟随スヘキ義務ヲ負フ人アリテ其  
ノ制度全ク後世ノ封田ニ屬スル所ノ軍役ニ毫モ異ナ  
ラサルヲ以ナリ

第四回 全上

該撒曰ク若シ君長其ノ臣屬ヲ集會シテ征討ノ師ヲ起

スル志アルヲ告ケ之ニ從軍ヲ請フハ君長ニ左袒  
シテ其ノ舉ヲ賛成スルモノハ皆起立シテ應分ノ力ヲ竭  
サンヲ承諾スヘシ果シテ此ノ如クナレハ則チ衆人  
ノ稱揚スル所タレモ若シ其ノ盟約ヲ渝ルハ忽チ衆  
人ニ彈指セラレテ叛徒逆賊ノ惡名ヲ受クルヲ免レス  
此ニ記スル處ノ該撒ノ言ト及ヒ前ニ援ク所ノ多西土  
ノ著書ハ即チ我カ佛國第一朝ノ君長ノ實録ナリ  
由是觀之往昔我カ國王カ出師ノ舉アル毎ニ新タニ軍  
勢ヲ募リテ新兵ヲ鼓舞シ新民ヲ約束スルヲ見ルモ決  
シテ怪シムニ足ラス夫レ大獲アラントスルニハ大費  
ヲ顧ミルヲ能ハス且ツ國王ハ其ノ搶掠スル所ノ財寶



ヲ占領スルモノト雖氏更ニ之ヲ分割シテ以テ有功ノ  
士ヲ賞セサル可ラス必竟其ノ領地ハ一タヒ増セハ則  
チ再ヒ減シ終始多キヲ加ヘス若シ父諸子ヲ一國ニ封  
スルハ必ス之ニ副フニ相應ノ富ヲ以テ國君ノ體統  
ヲ存セサル可ラス君長ハ臣屬ノ承諾ヲ得スシテハ已  
カ女ノ嫁資トシテ富ヲ外國ノ人ニ分與スルヲ能ハス  
當時ノ制度ハ恰モ發條ノ機械ヲ以テ一國ヲ運轉スル  
ニ異ナラサレハ時々之ヲ緊束スルヲ忘ル可ラス

第五回 佛朗克人ノ侵畧ヲ論ス

或ハ云フ佛朗克人ハ高盧ニ入寇シテ全國ヲ畧取シ之  
ヲ一變シテ封田ト爲セリトハ誣言ナリ蓋シ第二朝ノ

末世ニ迄テ國中ノ土地大半ハ封田或ハ倍臣地或ハ其  
他ノ所屬地ト爲タルヲ見ルニ由リ此説ヲ作スト雖氏此  
ノ田制ハ抑モ殊別ノ原因アリテ然ルモノナレハ之ヲ  
下文ニ鮮明セントス

諸記者多クハ此ノ虚説ニ因リテ以爲ラク諸蕃民ハ全  
國一般ニ主従ノ分ヲ定ムヘキ法制ヲ創立セリト是レ  
必竟其ノ根據トスル所ノ原理ト齊シク無根ノ説タル  
ヲ免レス果シテ其ノ説ノ如ク若シ封田ノ未タ私有ト  
確定セサル時ニ全國ノ土地ヲ舉テ悉ク封田或ハ其ノ  
屬地ト爲シ一國ノ人民ヲ舉テ悉ク臣屬或ハ其ノ倍臣  
タル奴隸タラシメハ權力ハ自ラ有土ノ人ニ歸セサル

ヲ得サルヲ以テ未開ノ當時ニ在リテ獨一ノ財産トモ稱スヘキ封田ヲ常ニ與奪スル國王ハ即チ專制ノ君主ニシテ其ノ威權ハ更ニ土耳其ノ大君ニ異ナラサルヘシ是レ諸國ノ史乘ト相合セル處ナリ

第六回 我特人、不尔艮人、佛朗克人、ヲ論ス

高盧ハ日耳曼諸部ノ侵掠スル所ト爲リテ西我特人ハ其ノナルボン及ヒ南部ヲ畧取シ不尔艮人ハ東部ニ遷徙シ佛朗克人ハ自餘ノ諸部ヲ征服セリ  
斯ノ諸蕃民カ其ノ侵掠セル邦土ニ我カ郷國ノ風俗、慣習、性情ヲ保存シテ失ハサルハ決シテ疑ヲ容レス那ノ國民タルニ拘ラス能ク一時ニ其ノ身心ノ慣習ヲ更改

シ得可ラサレハナリ

日耳曼人ハ原ヨリ農業ニ盡力セス之ヲ該撒、多西土ノ書紀ニ徵スルニ專ラ牧畜ノ業ニ從事セルヲ以テソノ法典ニ於テモ牲畜ノ事ニ係ルモノ殊ニ多キヲ見ル可シ夫ノ佛朗克人ノ記傳ヲ著述セルロリコンモ亦タ一個ノ牧羊者タリ

第七回 土地分割ノ諸方法

我特ノ不尔艮人ノ史乘法典ヲ見ルニ兩國人ハ曾テ種々ノ口實ヲ作爲シ之ヲ名トシテ頻リニ羅馬帝國ノ版圖ニ入寇シケレハ羅馬人ハ諸蕃民ノ劫掠ヲ免レンコトヲ希望スルヨリ已ヲ得ス諸蕃民ノ爲メニ生計ノ道ヲ辨

備スルヲ謀リテ最初ハ之ニ給與スルニ禾穀ヲ以テ  
シタレ免ル、ヲ得ス遂ニ土地ヲ分割シテ其ノ欲望  
ヲ厭シムルノ却テ得策タル勢ト爲リ乃チ羅馬帝或ハ  
官憲ノ名ヲ以テ土地分割ノ方法ニ就テ諸蕃民ト特別  
ノ盟約ヲ結ヘリ西莪特人不爾垠人ノ史乘法典ニ見ル處  
ノモノ是レナリ

佛朗克人ノ如キハ前者ノ故智ニ倣ハス其ノ情意舉措  
全ク彼レト相異ナリ故ニ撒律里布利ノ法律中毫モ土  
地分割法ノ痕跡アルヲ視ス蓋シ此ノ蕃民ハ全國ヲ征  
服シテ恣ニ其ノ土地ヲ掠取シ特リ我カ全族ノ爲メニ  
スル外更ニ規則制度ヲ設シナシ

以上論シ來ル所ニ據リテ不爾垠人西莪特人ノ高廬ニ  
於ケルト同シク西莪特人ノ西班牙ニ於ルトヲীগス  
トラスヲドアヒルノ引率セル補助兵ノ伊太利ニ於ル  
ト佛朗克人ノ高廬ニ於ケルト汪德羅人ノ亞弗利加ニ  
於ケルト其ノ情狀各自ニ殊別アレハ一視混同ス可ラ  
サルヲ知ル可シ之ヲ要スルニ前者ハ舊國民ト盟約ヲ  
結テ之ニ准據シテ土地ヲ新旧二民ノ間ニ分割シ後者  
ハ絶テ斯ノ如キ措置ニ及フナシ

第八回 全上

羅馬ノ土地全ク諸蕃民ノ占領ニ歸シタルノ説ヲ作ス  
モノハ蓋シ西莪特人不爾垠人ノ法律中ニ右二族カ羅

馬國ノ三分ニテ據有スルノ一句アルニ胚胎スヘシト雖氏右二族ノ所有ニ屬シタルハ專ラ羅馬人ヨリ割授セル所ノ一定ノ土地ニ限レリ

不爾垠人ノ法律中ニゴンデバルド王ノ言ヲ援テ該人民カ始メテ此地ニ建國ノ基ヲ立ルニ方テ既ニ全國ノ土地三分ノ二ヲ割授セリト記シ又ソノ追加第二編ニ爾後此國ニ來住スル人民ニハ其ノ半額ヲ給與スヘキ旨ヲ掲ケタリ之ニ由テ之ヲ觀レハ敢テ最初ヨリ全國ノ土地ヲ羅馬人不爾垠人ノ間ニ分割シテ所有セシニハアラサルナリ

右二條ノ規則ノ趣旨ハ全ク法律ノ本文ト同様ニシテ

毫モ異ナラス殊ニ其前後二者ノ事互ニ相發明スルカ如キヲ見ルヘシ蓋シ後者ニ更ニ土地分割ノ事ヲ一般ノ制度ト爲スノ意義ヲ含マサルカ如ク前者ニ於テモ之ナキハ明了ナリ

佛朗克人モ亦タ不爾垠人ニ齊シク頗ル戰勝ノ勢焰ヲ節制セルニ因テ悉皆征服ノ土地ヲ羅馬人ヨリ搶奪セサリシナリ蓋シ該蕃民ハ人口甚タ多ラサルヲ以テ更ニ廣大ナル土地ヲ要セス唯タ適宜ノ土地人民ヲ畧有シテ其餘ヲ放擲シテ羅馬人ノ所有ニ任セタリ

第九回 土地分割法ニ關涉セル不爾垠人西  
我特人ノ法律ヲ適用スル

土地分割法ハ取テ勝國人ノ暴威ニ伏リテ制定セシモノニアラス同國ニ共住スル新舊兩國民互相ノ便宜ヲ謀ルノ目的ニ出タルト思想ス可シ

不爾垠人ノ法律ニ曰ク羅馬人ハ懇篤ニ不爾垠人ヲ款待スヘシト是レ曰耳曼人ノ風俗ノ真面目ニシテ多西土カ該人民ノ外人ヲ優待スルハ天下ニ其ノ比ヲ見スト謂ヘル所以ナリ

不爾垠人ノ法律ニ該國人ハ土地ノ三分二ト奴隸ノ三分一トヲ所有スヘシト掲載セリ此ノ制度ニ於テ不爾垠羅馬二國民ノ性情ヲ酌量シテ各自ノ生計ヲ得ヘキ慣習ニ從フヲ知ルヘキナリ何トナレハ不爾垠人ハ

專ラ牧畜ニ從事セルヲ以テ許多ノ土地ヲ要スレバ奴隸ハ少數ニテ足レリトス之ニ反シテ羅馬人ハ農作ヲ主トセルヲ以テ廣大ナル土地ヲ要セサレバ即チ全國一奴隸ハ多數ナラサルヲ得ス即チ三分而ノ森林ノ如キニ至テハ二國民ノ需要多少ノ差ナキヲ以テ之ヲ平等ニ分配シタリ

不爾垠人ノ法典中ニ各蕃民ヲシテ務メテ羅馬人ニ接近シテ居住セシメタルヲ見レハ以テ土地分割法ノ一般ノ制度ニ非サルヲ知ルヘク且土地ヲ割與セル羅馬人ト之ヲ受領セル不爾垠人ノ員數ヲ同一ニシテ衆寡ノ不平ヲ防キテ羅馬人ノ損害極メテ少ナカラシメ

謀ルヲ知ル可シ又不爾垠人ノ獷悍ノ民ニシテ甚ク狩獵ヲ嗜ミ且牛羊ヲ牧畜セルヲ以テ荒野ヲ受ルモ更ニ怨色ナキカ故ニ犁鋤ヲ施スヘキ土地ハ自ラ羅馬人ニ歸スル而已ナラス不爾垠人ノ牲畜ハ却テ羅馬人ノ田地ニ肥糞ヲ與ヘタリ

第十四回 奴隸制ヲ論ス

不爾垠人ノ法律ニツノ高廬ニ遷徙セル時ニ土地ノ三分二ト奴隸ノ三分一ヲ分配シタルヲ記セリ然レハ則チ奴隸制ハ未タ不爾垠人カ高廬ニ侵入セサル以前ヨリ既ニ該地ニ流行シタルヲ知ルヘキナリ  
不爾垠人ノ法律中其ノ二國民ノ身分ニ關涉セル條款

ニ於テ嚴ニ貴族自主民奴隸ノ區別ヲ立タリ是ニ由テ之ヲ觀レハ敢テ奴隸ハ特リ羅馬人ニ限ルモノニアラス又自主民貴族ヲ以テ諸蕃ノ人民ニ限レルモノト爲ス可ラス

又右法律ニ曰ク不爾垠ノ新自主民ニシテ未タ主人ニ一定ノ金額ヲ納ノス或ハ羅馬人カ所有セル口分田ノ三分一ヲ得サル間ハ常ニ主人ノ家屬タルヲ免カレスト然レハ土地ヲ所有セル羅馬人ハ他人ノ家屬ニアラス又自主民ノ徵候タル三分一ノ股分ヲ得有スルヲ以テ全ク自由ノ人民タリ

羅馬人カ佛朗克人ノ奴隸ニ非サリシハ其ノ高廬ニ

住居スルモノト諸蕃民トノ交際ニ於ケルト更ニ異ナルヲナキハ撒律里布利ノ法律ヲ見テ一目瞭然タルヲ得ヘシ

ブーラインウールリエ候ハ其考案ノ要點ヲ誤マリテ曾テ佛朗克人カ羅馬人ヲ奴隸ノ地位ニ沉淪セシメント欲シテ一般ノ制度ヲ設立セシヲ証明セヌ  
候ノ著述ハ毫モ牽強ノ説ナク其昔祖先ノ貴族タリシ時ノ氣象ヲ學ヒテ行文單簡更ニ修飾ヲ加ヘサルヲ以テ其ノ論ノ精實ニシテ遺漏ナキト並ニ其ノ見解ノ誤謬ニ至テハ各人自ラ之ヲ判斷スヘシ故ニ予敢テ贅セス唯ク一言以テ之ヲ批評ス即チ候ハ意匠ヨリモ更ニ才

力ニ富ミ學識ヨリモ更ニ意匠ニ富ノリト然レモ能ク我カ國ノ歴史法律ノ要領ヲ熟知スルハ候ヲ舍テ他ニ其ノ人アルヲ見サレハ決シテ學識ノ不足ヲ輕視スヘカラサルナリ

ブーラインウールリエ候及ヒアツバドボスノ二人ハ互ニ反對ノ説ヲ作シテ氷炭相容レス一ハ貴族ヲ助ケテ平民ヲ壓倒シ、一ハ平民ニ左袒シテ貴族ヲ攻撃セリオ  
フ井ツトノ詩ニ太陽其子フエートンニ鸞輅ヲ御スルヲ許セル時ニ之ヲ戒メ車ヲ馳セテ高キニ過クル勿レ、高キニ過クレハ天闕ヲ燒クヘシ、低キニ過クル勿レ、低キニ過クレハ地球ヲ焚灼シテ灰燼トナスヘシ、右ニ

偏スル勿レ大蛇星ニ會フヘシ左ニ倚ル勿レ香案星ニ  
撞着スヘシ須ラク中道ヲ通行セヨト云シカ如ク著書  
立論ニ於テモ亦タ然セサルヲ得ス

第十一回 全上

我國征定ノ時ニ普通ノ制度ヲ設立セリトノ思想ヲ起  
スモノアルハ蓋シ第三朝ノ初世ニ國中奴隸ノ數甚タ  
夥シキニ由テナリ其ノ實ハ奴隸制益々皇張スレテ絶  
テ其ノ效益ヲ見サルカ故ニ當時ハ人民ニ於テ爲ノニ  
普通ノ法律ヲ制定セシヲ企圖シタレテ遂ニ着手ニ  
至ラスシテ止メリ

第一朝ノ初ニハ佛朗克人羅馬人ノ中ノ自主民ハ無慮

數万ノ多キニ至ルヲ見タレテ第三朝ノ初ニ至テ奴隸  
ノ數夥シク増加シテ農夫市民ノ過半ハ自主權ヲ失シ  
テ他人ノ從僕ト爲レリ加之當初ハ羅馬人ノ府邑ニ於  
ルカ如ク地方自治ノ政行レテカ府邑會裁判所等ノ設置  
アリタレテ後ニハ唯タ主公ト奴隸ノ外更ニ人民ナキ  
ノ狀況ヲ現セリ

佛朗克人、不爾根人、我特人等諸蕃頻年入寇シ輒チ金銀  
財寶服飾乃至男女老幼ヲ擄ハスシテ搶掠シテ凡ソ軍  
人ノ得テ攜帶スヘキ物件ハ一モ遺サス之ヲ一所ニ運  
ヒ去リテ全軍ニ配分セリ又當時ノ史傳ニ徵スルニ第  
一回ノ遷徙即チ初回入寇ノ時ニ土地ノ住民ト盟約ヲ



締テ土地ノ住民ニ政權ヲ受用セシメタリ是レ當時ノ所謂列國公法ニシテ諸蕃民ハ戰時ニ人民ノ物貨ヲ搶掠シテ遺サ、ルモ平時ニハ之ヲ准許シテ秋毫ヲモ侵ス、無カリシナリ若シ然ラヌムハ何ソ撒律不爾根ノ法律中ニ奴隸主義ニ相及スル規則ヲ存スルノ理アラシヤ

但シ奴隸制ハ敢テ一國民カ他ノ國民ヲ征服セル直接ノ影響ニ非サレハ戰勝ノ後ニ行ハル、處ノ列國公法ニ根基スルヤ復々疑フ可ラス即チ其ノ順序ハ初ノ亡國ノ人民或ハ勝國ニ抗敵シテ從ハス或ハ反旗ヲ揚テ恢復ヲ謀リ其志成ラスシテ府邑陷落ス於是住民ハ自

主權ヲ奪奪セラレテ奴隸ノ苦界ニ沉淪セサルヲ得ス而シテ勝國ノ人民カ自他互ニ相戰フ、ハ姑ラク之ヲ論セサルモ殊ニ佛朗克人ノ如キハ王國ヲ君主ノ親戚ニ分割スルノ慣例アルヨリ兄弟相闘ノ叔侄相闘テ内訌常ニ止マス其ノ相闘フニ方テハ始終列國公法ヲ履行セサル可ラサルヲ以テ佛朗克人中ニハ他國ヨリモ多數ノ奴隸ヲ生セサルヲ得サルノ理ナリ顧フニ君權ノ一事ニ就テ佛蘭私ノ法律ト伊太利西班牙ノ法律ト全ク其ノ揆ヲ一ニセサル原因モ蓋シ茲ニ胚胎スルナルハシ

建國ノ規模速ニ定マリタレハ當時實踐シタル列國公

法ノ爲メニ若干ノ属隸地ヲ生シ荏苒數十年ノ久シキ  
ヲ經テ遂ニ許多ノ奴隸ヲ生セリ

帖阿佗カ王ハラーソエルンノ人民カ己レニ對シテ貳  
心ヲ懷クト疑念シ乃チ部下ノ佛朗克人ニ告ケテ汝チ  
有衆宜シク予ニ隨行セヨ必ス金銀、俘虜、衣服並ニ牲畜  
ニ饒カナル國ニ引卒シテ汝等ニ其ノ國土ヲ占領セシメ  
其ノ住民ヲシテ汝等ノ郷國ニ遷徙セシムヘシト云ヘ  
リ

ゴントラム、チルヘリツクノ二王講和ノ後ブルチス城  
ヲ圍ム所ノ兵士ヲ凱旋セシメタル片ニハ一城ノ物貨  
ヲ盡ク掠奪シ去リ殆ト人畜ノ跡ヲ絶スルニ至レリ

伊太利王帖阿佗カノ志氣政畧ハ全ク自餘諸蕃ノ君長  
ニ異ナリテ專ラ天下ノ名望ヲ博取スルニ在リ故ニ其  
ノ師ヲ高廬ニ出スニ臨ミテ書ヲ將帥ニ贈リテ曰ク予ハ  
甘シテ羅馬ノ法律ヲ遵守スヘシ將軍ハ宜シク主家ヲ  
脱走スル奴隸ヲ捕ヘテ之ヲ所有主ニ反附スヘシ人民  
ノ自由ヲ保護スヘキ者ハ決シテ家奴ヲ教唆シテ主人  
ニ叛カシム可ラス縱令他ノ君長ハ既ニ征服シタル府  
邑ヲ蹂躪シ人畜ヲ搶掠スルヲ以テ心意ニ慊シトスヘ  
シト雖モ予カ征伐ノ本意ハ暴ヲ除キ殘ヲ去ルニ外ナ  
ラサレハ唯タ其ノ臣民カ我カ大旆ノ下ニ歸順スルノ  
晚キヲ怨ムヲ希望スルナリト則チ該王ハ其心ニ佛朗

克人不爾垠人ノ君長ノ殘暴ヲ表白スルノ意ヲ含ムヲ  
以テ言語ノ間自ラ諸蕃民ノ列國公法ヲ譏刺スルヲ免  
レス

然ルニ此ノ列國公法ハ尚ホ第二朝ニ至ルマテ依然ト  
シテ履行セラレタルニテ紀元七百六十三年百寶王  
カアク井テイシヲ攻陷セシキニ其ノ兵士ハ許多ノ物  
貨ヲ搶奪シ無數ノ俘虜ヲ獲テ佛國ニ凱旋セシトアリ  
此事ノツ、ノ史ニ詳カナリ  
斯ノ如キ事蹟ヲ記セルノ紀傳拔擧ニ遑アラス然レハ  
世人ハ斯ル慘怛ノ状ヲ目撃シテ坐ニ哀憐ノ情ヲ起シ  
慈德アル僧侶ハ囚虜カ鉄鎖ニ連繫セラレタルヲ視ル

ニ忍ヒス之ヲ收贖スルカ爲メニ寺院ノ財寶ヲ罄シテ  
未タ足ラス往々神具ヲ賣却スルニ至ルトアリ當時僧  
侶カ人民ノ爲メニ努力セシトハ名僧ノ傳中ニ歷々ト  
シテ存シ今日ニ至リテ尚ホ餘光アリ但シ名僧傳ノ記  
者カ偶然タル事物ノ運行ニ出タル事蹟ヲモ天命神意  
ニ附會セシハ頗ル妄誕ノ批難ヲ免レスト雖氏當時ノ  
風俗人情ヲ鑑ミルニハ之ヲ捨テ他ニ信據スヘキモノ  
無キヲ奈何セン

試ニ眼ヲ我カ歴史法律ノ古典ニ注ク可シ唯ク全体渺  
茫トシテ滄海ヲ望ムカ如ク其ノ際涯ヲ知ルニ由ナキ  
トヲ見ルヘシ之ヲ要スルニ如是荒唐粗漏ノ書籍ハ盡

ク信ヲ置クニ足ラサレハ唯タ其ノ精神ヲ撮取シテ可ナリ

一國ノ自主民一タヒソノ身分ヲ失フテ以來人民ノ掌裡ニ存スル所ノ田地ハ一變シテ寺院ノ所領ニ歸シ百千ノ奴隸ヲ畜フ人ハ或ハ腕力ノ強キヲ恃ミテ兼併ノ計ヲ爲シ或ハ契約ニ因リテ之ヲ占有シ到ル處漸ク村落ヲ成スニ至レリ然ルニ又他ノ一方ヨリ之ヲ觀察スレハ工藝ヲ修ムル所ノ自主民ハ自カラ奴隸ノ逆境ニ沉テ其業ヲ營ムニ至ルヲ以テ奴隸ハ工藝ニ由テ得ル所ヲ以テ其ノ土地ニ失フ所ノモノヲ補償セリト謂ハサルヲ得ス

土地ヲ所有スルモノハ一旦之ヲ寺院ニ喜捨シ而シ躬カラ永世ノ借主ト爲リテ之ヲ領有シ其ノ功德按甘シ為ルトニ由リテ我カ土地ハ寺院ノ聖物ニ變成スト思想セリ是レ當時ノ慣習然ルナリ

第十二回 諸蕃民ニ属スル土地ニ納租ノ義務ナキヲ論ス

蕃民ハ衣食質素ニシテ華奢ノ趣味ヲ知ラス而モ自由ヲ尚ヒ武事ヲ好ミ其ノ生業ヲ問ハハ牛羊ヲ牧畜スルノ外アラス他ハ僅カニ風雪ヲ防クハキ茅舍矮屋アル而已ニテ更ニ一物ノ以テ其ノ懷土ノ情ヲ起サシムル無シ此ノ如キ人民ハ唯タ物貨ヲ擄奪スルノ目的ヲ以

テ酋長ニ隨フテ他ノ國民ヲ劫掠スルハ自然ノ情勢ニ  
シテ其ノ心思未タ徵租貢税ニ注キ至ラサル所以ナリ  
抑モ斯ル風俗人情ニシテ徵租納税ノ制度ヲ創立スル  
ハ數百ノ星霜ヲ經過シテ百工ノ業具備シ人民其ノ慶  
ニ頼ルニ至ラサレハ能ハス

チルベリツク、フレデコンダ兩王ノ暴斂ノ一ニ居ル、一  
畝ニ付一壺酒ノ苛税ハ之ヲ羅馬人ニノミ課賦シタル  
カ故ニ公衆ノ義憤ニ乘シテ右ノ納税簿ヲ裂キタルハ  
佛朗克人ニトラスシテ當時ノ僧徒タル羅馬人ナリ且  
此ノ重税ハ專ラ羅馬人ノ住居スル府邑ニ限りテ課賦  
セラレタリ

トウルス府ノ教正グレゴリー曰クチルベリツク王ノ  
死後ニ法官基ハ該王在位ノ時ニ「インゼヌイ」即チ生來  
自主民タル佛朗克人ニ徵税ノ命ヲ下シタルヲ以テ衆  
怒ニ觸レタルヲ覺知シ身ヲ寺院ニ潛匿シテ禍ヲ避  
ケタリト是ニ由テ之ヲ觀レハ佛朗克人ハ苟クモ奴隸  
ニ非サルヨリハ納税ノ義務ヲ負ハサルヲ知ルヘシ  
稍文章ノ法ニ通スルモノニシテ誰レカアツベドボス  
ノ解義ヲ見テ其ノ失當ヲ咎メサルアランヤ氏ハ當時  
奴隸ノ身分ヲ免レテ新タニ平民ニ班シタル人民ヲモ  
「インゼヌイ」ト稱セリトノ憶説ヲ立テ之ヲ推シテ羅馬  
語ノ「インゼヌイ」ヲ「租税ヲ免カルト」譯シ之ヲ今日現用

セル「注意ヲ免カル」又ハ「罰ヲ免カル」ノ諸語ト全義ニ用  
井タリ實ニ僻説ト謂ハサルヲ得ス

トウルスノグレゴリー曰クバルテニウスハ佛朗克人  
ニ租税ヲ課賦スルハ寧ロ一命ヲ捨ルノ却テ容易ナル  
ニ若カストアツバドボスハ此ノ一章ニ窮シテ其ノ言  
ヲ所ヲ知ラス千思万考ノ後ニ是レ非常ノ税ナリト遁  
辞ヲ設ケタリ

西莪特人ノ法律中ニ若シ諸蕃ノ人民ニ於テ羅馬人ノ  
所有地ヲ占領スルヲアレハ法官ハ必ス命シテ之ヲ賣  
却セシムヘキヲ掲ケタリ其立法ノ精神ハ全ク右土  
地ヲシテ永久有税地タラシモンカ爲メニ外ナラス因テ

諸蕃ノ人民ニ納税ノ義務ナキヲ見ルニ足ル

アツバドボスハ我カ説ヲ賛成センカ爲メ故ラニ西莪  
特人ニ納税ノ義務アリシヲ論シテ其ノ法律ノ文義  
精神ヲ併セテ放下シ而ノ臆測ノ論ヲ立テ莪特人ノ建  
國ヨリ此ノ法律ヲ制定スル時ニ至ルマテ特リ羅馬人  
ニ賦課セル租税ヲ増加シタルノミト言フト雖モ全ク  
無稽ノ説タルヲ免カレスフアーゾルバルドウインノ  
如キ詭論ヲ好ム人ヲ除ク外一人トシテ自擅ノ見解ニ  
由テ事實ヲ瞞欺セラルハモノハアラサル可シ  
此ノ博學ナル記者ハ諸蕃民ノ法律ヲ考究スルノ際羅  
馬人カ兵士ノ封田ニ租税ヲ賦課セル証據ヲ得ント欲

シテジュスチニアノ成典ヲ反覆搜索シ之ヲ援テ佛朗克人ノ祿田ニモ同様ノ貢租アリト妄信シタルナルヘシ然レモ我カ祿田ノ制ヲ將テ強テ羅馬人ノ制度ニ附會スルノ說ハ既ニ輿論ノ擯斥スル所ト爲レハ如是臆說ハ世人唯タ羅馬史ノミヲ知リテ我國ノ古典舊事ハ未タ雲霧ノ中ニ隱埋セル時代ニ非サレハ行ハレサルナリ

但シ該記者ノ謬點ハ佛朗克人ノ慣行法ヲ知ラシノンカ爲ノニカスシラドルスノ說ヲ援引スルヲト伊太利及ヒ帖阿他力王ニ降服セル高廬部ノ事蹟ヲ舉クルトニ在リ抑モ此ノ數事ハ源流自ラ別ニシテ決シテ混同

スヘカラサルカ故ニ予ハ別ニ一書ヲ著シテ以テ東莪特王國ノ政圖ハ絶テ當時ニ設立セル諸蕃民ノ政府ト其ノ趣ヲ異ニセルヲ明示スルノ宿志ヲ抱クヤ久シ殊ニ東莪特人ノ慣行法ナリト謂フヲ以テ佛朗克人モ亦タ之ヲ准行セリト信ス可ラサル而已ナラス之ニ及シテ東莪特人ノ慣行法ハ決シテ佛朗克人ニ准行サレスト斷定スヘキ他ノ理由アリ

談博ナル學者ノ難シトスル處ハ論題ノ旨趣ヲシテ岐路ニ迷ハシメサルニ在リ譬ヘハ星學ノ定語ヲ以テ之ヲ言ヘハ先ツ太陽ノ眞位ヲ看出スルニ在リ

該記者ハ亦タ諸蕃民ノ歴史法律ニ於ケルカ如ク集會

法例ヲモ誤解セリ故ニ其ノ佛朗克人カ納税セルヲ主張スルニ方テハ特リ奴隸ニ限ルヘキヲモ自主民ノ事ト誤認シ兵役ヲ論スルキニハ自主民ニ限ルヘキヲモ奴隸ノ事ト誤認セリ

第十三回

佛朗克人ノ建立セル王國ニ於テ

羅馬人高盧人カ租税ヲ貢納セシ

ヲヲ論ス

茲ニ高盧人羅馬人ハ諸蕃民ニ降服セル後モ尚ホ以前皇帝ノ治下ニ在リシ時ノ如ク租税ヲ貢納セシヤ否ヤヲ論究スルハ敢テ難キニ非サレ氏唯タ冗長ニ渉ルヲ恐ル、ノミ然レ氏之ヲ論セサレハ佛朗克人カ最初ハ

大ニ租税ヲ樂輸シ後ニ至テ忽然之ヲ嫌忌セシ理由得テ解ス可ラサルカ故ニ茲ニ其ノ然ル所以ノ大意ヲ畧述ス即チ右人民ハ假令當初納税ノ義務ヲ負シカ氏幾クモナク蠲免ノ特准ヲ得テ而ノ之ニ代ルニ兵役ヲ以テセシナリ

路易王第一世ノ集會法例ハ洵トニ佛朗克人建立ノ王國內ニ於ル自主民ノ狀態ヲ形容シテ盡クセリ其文ニ曰ク義特即チイベリヤノ兵隊ハ黑夷種ニテムール人ト稱ノ暴虐ヲ避テ路易ノ封域ニ内徙スルヲ許容セラレタリ其時雙方盟約ヲ締テ右徙民ハ自餘ノ自主民ト等シク出征ノ舉アレハ芻牧ニ從行シテ行軍ノ際ハ



衛兵ト爲リ或ハ哨兵ト爲リテ俱ニ芻牧ノ号令ヲ守ル  
ヘク又王室ノ理事官ニ輜重ヲ運輸スル車馬ヲ供給ス  
ヘク又外國使臣ノ往返ニモ同シク之ヲ供給スヘシ其  
他ハ一切貢納ノ義務ヲ負フヲ要セス全ク自餘ノ自主  
民ト同等ノ待遇ヲ受クヘシト

此ノ慣習ハ第二朝ノ初ヨリ新クニ行ハレタルモノニ  
アラズ第一朝ノ中期若クハ末世ノ頃ニ創マリタル  
必然ナリ何トナレハ八百六十四年議定ノ集會法例ニ  
自主民カ兵役ヲ勤ノ且車馬ヲ供給スル等ノ事皆舊來  
ノ慣習ナル旨ヲ大書シテ自主民ニ限リタル義務ト爲  
シ封田ヲ所有スル人ハ之ヲ免除シタルヲ掲ケタレ

ハナリ尚ホ下文ヲ見ルヘシ

右ノ外自主民ニ租税ヲ貢納セシメ難キ規則ノアル  
リテ四區ノ地所ヲ有スルモノハ常ニ從軍出發ノ義務  
ヲ負フト雖氏三區ノ所有主ニ至テハ唯タ一區ヲ有ス  
ル所ノ自主民ト聯合シテ後者ヨリハ前者ノ軍費四分  
ノ一ヲ供給シテ本國ニ止マリテ出陣セス又二區ノ所  
有主タル自主民二名ト聯合シテ出陣スル人ハ其ノ軍  
費ノ半額ハ之ヲ本國ニ止マル所ノモノニ辨償セシメ  
タリ

又自主民ノ所有地ニ封田ニ等シキ特准ヲ授與セル數  
多ノ免許狀アリ其ノ免許狀中ニハ各種ノ服役ヲ列記

シテ毫モ租税ノ事ニ及ハス搃シテ斯ノ土地ハ芻牧及  
ヒ政府ノ官吏ヨリ要求スル一切ノ義務ヲ免除セラレ  
タリ此ニ據リテ之ヲ觀レハ右自主民ニ租税ヲ賦課セ  
シコナキハ決シテ疑フ可ラス

羅馬人ノ徵租法ノ能ク佛朗克人ノ王國ニ行ハレサル  
コハ理ノ當サニ然ルヘキ所ナリ蓋シ其法極ノテ繁密  
錯雜ナルカ故ニ當時諸蕃民ノ如キ樸素ナル人民ノ思想  
ノ及ヒ難キヲ以テ敢テ之ヲ計劃シ能ハサレハトリ試  
ニ韃靼人ヲシテ歐羅巴ノ全土ヲ畧取セシメヨ該人民  
ハ決シテ我カ理財術ヲ會得シ能ハサルヘシ

路易王第一世ノ紀傳ヲ作ル無名民ハ甲列曼帝カアキ

タニアニ移住セシノタル佛朗克人ノ州牧官吏ノコヲ  
論シテ該帝ハ州牧官吏ニ國疆ノ防禦ト王室ニ直隸セ  
ル采地ノ兵權ヲ委任セリト謂ヘリ是レ則チ第二朝ノ  
王室歳入ノ形況ヲ明示スルモノナリ當時國王ハ親ラ  
其ノ采地ヲ所有シ奴隸ヲ役使シテ之カ耕種ニ從事セ  
シノテ而シテ羅馬帝國ノ世ニ自主民ノ身及ヒソノ財産  
ニ賦課シタル貢租分頭税其他ノ租庸ハ一變シテ國疆  
ヲ防禦シ從軍出兵ノ義務ト爲レリ

同書ニ又曰ク曾テ路易王第一世カ日耳曼ニ赴キテ其  
ノ父甲列曼帝ヲ省視セシ時ニ該帝ハ路易王ニ對シテ  
何故ニ王冠ヲ戴キナカラ一國ヲ領スル身ニシテ斯ク

貧乏ナルヤト問ケレハ路易答ヘテ小子ハ國王ノ虚器ヲ擁スルノミ王室ノ采地ハ悉ク諸候伯ノ所有ニ属セリ帝其言ヲ聞テ浩歎シ幼君ノ淺慮ニ依リテ一朝忽卒ニ授與セシ處ノ土地ヲ盡ク收回センヲ謀リタレハ其ノ人望ヲ失センヲ恐レテ特ニ理事官ヲ置キテ凡百ノ事物ヲシテ悉皆前日ノ例規ニ復セシメタリ諸僧正書ヲ禿王甲列ノ兄弟ナル路易ニ贈リテ曰ク勤ノテ己カ土地ヲ改良セヨ始終僧侶ノ家ニ身ヲ寄スル勿レ車馬ヲ疾驅シテ家奴ヲ勞苦セシムル勿レ一家ノ生計ヲ立テ使臣ヲ接待スハキ様ニ家政ヲ料理セヨト是ニ依テ之ヲ視レハ當時王室ノ歲入ハ特リ其ノ采地

ヨリ收入セシメ其夕明カナリ

第十四回 佛朗克人ノ所謂センシユス税ヲ

論ス

諸蕃ノ人民其ノ郷國ヲ去リテ後固有ノ慣例習俗ヲ集メテ一書ヲ編制セシト欲シタレハ羅馬ノ文字ヲ用ヰテ日耳曼ノ國語ヲ筆記スルハ甚タ難事ニ属スルヲ以テ羅匈語ニテ之ヲ著述シタリ

征伐ノ軍、革命ノ亂、踵キ起リテ舊物ヲ一掃シ天下ノ事物皆ノ舊來ノ面目ヲ存スルモノ無シト雖ハ之ヲ説明スルカ爲メニハ羅匈ノ古語ヲ用ヰテ以テ新物ノ義ヲ解釋セサルヲ得ス故ニ羅馬語ニテセンシユスノ義ヲ

含ムモノヲ指シテ「センシユス、トリビユト」ト稱シ而  
ノ絶テ類似ナキモノニ至テハカメテ羅馬字ヲ用井テ  
日耳曼語ヲ説明セリ「フレドム」ノ一語ノ如キモ全ク之  
ヨリ成立スルモノナリ將ニ次回ニ論スヘシ

「センシユス」トリビユト「ムナル」二語ヲ訛傳レテ以來我  
カ第一朝、第二朝ノ時ニ所用ノ二語其ノ意義ヲ失シテ  
遂ニ曖昧トレテ要領ヲ誤マルニ至レリ故ニ輓近ノ學  
者ハ古書中ニ此ノ二語アルヲ視ルヨリ見解ヲ下シテ  
之ヲ全ク羅馬人ノ「センシユス」ナリト妄信シテ第一朝  
第二朝ノ君主ハ唯タ羅馬ノ帝位ヲ繼ク而已ニテ其ノ  
施設ニ於テハ何等ノ變革ヲモ加フナシト断定シタ

リ加之第二朝ノ頃ニ徵收セル特殊ノ稅歛ハ之ヲ他物  
ト交換シ或ハ一定ノ制限ヲ加ヘテ別項ノ稅ニ變更シ  
タルヲ以テ竟ニ是ヲモ羅馬ノ「センシユス」ナリト断定  
スルニ至レリ又近世ニ國王直隸ノ土地ヲ賣買ス可ラ  
サル規則アルヲ見テ此等ノ稅歛ハ羅馬ノ「センシユス」  
ニ當リ且ツ直隸地ノ一部ヲ成サハルニ付全ク強奪ニ  
屬スト臆測セリ

今日ノ思想ニ據リテ往古ノ事ヲ推論スルハ正鵠ヲ誤  
ルノ淵源ナリ予ハ將ニ古事ヲ執リテ近時ノ事ニ附會  
スル人ニ向テ埃及僧カ梭倫ニ告ケタル一句ヲ贈ラン  
トス曰ク「雅典人ヨ、嗟乎汝ハ孩兒ノ見タルヲ免レス

第十五回

「センシユ」税ハ奴隸ニ限リテ之ヲ徵收シ絶テ自主民ニ賦課セサルヲ論ス

國王、僧侶、候伯ハ僉ナ各自ノ采地ニ属スル奴隸ヨリ正税ヲ徵收セリ而シテ國王ハデ、ウイールリスノ集會法例ニ依リ、僧侶ハ諸蕃民ノ法典ニ依リ、候伯ハ此ノ事ニ關セラル甲列曼帝制定ノ規則ニ依リテ徵收セシヲ証明スヘシ

此税ニ「センシユ」ノ稱ヲ下セリ而シテ之ヲ徵收スルハ全ク一家經濟ノ爲メニシテ國家ノ公入ニアラス唯タ私身ノ課役ニシテ政府ニ對セルノ義務ニアラス

當時ノ所謂「センシユ」税ハ特リ奴隸ニ賦課センモノタルヲ更ニ疑フ可ラス其ノ証據ハマルキユルフスノ例規集成ニ凡ソ自主民ニシテ「センシユ」ノ收税簿中ニ記名セサルモノハ身ヲ法門ニ委子テ僧徒タルノ免許ヲ國王ヨリ得ヘキヲ記載セリ又薩遜部ニ芻牧ヲ差遣セル時甲列曼帝ヨリ授與セル敕令ニ耶蘇教ニ歸依セルノ故ヲ以テ該人民ニ自由權ヲ與フヘキヲ記載セリ是レ即チ自由權ヲ授與スル所ノ約書ニシテ甲列曼帝ハ薩遜人ヲシテ其ノ古ニ享ケシ處ノ人權ヲ復得セシメテ「センシユ」税ノ收斂ヲ免除シタリ然レハ則チ「センシユ」税ヲ納ムルヲ以テ奴隸ノ分限ト認メ

之ヲ納メサルヲ以テ自主民ト認ムルモ敢テ不可アル  
ヲナシ

甲列曼帝カソノ國內ニ遷住セル西班牙人ニ授與シタル特許狀中ニ嗣後州牧ニ於テ該人民ヨリ「センシユ」税ヲ徵收シ或ハ其ノ土地ヲ奪取スルヲ禁制シタリ蓋シ該人民ハ衆人ノ能ク知ルカ如ク始メテ佛蘭西ニ歸化スルヤ奴隸ヲ以テ待遇セラレタレハ帝ハ之ニ自主民タルノ資格ヲ與ヘンカ爲メニ先ツ一定ノ土地ヲ所有セシメント欲シテ乃チ「センシユ」税ヲ徵收スルヲ禁止セシナリ

又特ニ該人民ノ爲ノニ制定シタル禿王甲列ノ集會法

例ニ佛朗克人ト全等ノ待遇ヲナスヘキヲ命令シ併シテ「センシユ」税ノ徵收ヲ禁止セリ是レ復タ「センシユ」税ハ自主民ヨリ貢納セサルノ一證ナリ

ピ「テ」府ノ敕令第三十款ニ國王若クハ寺院ニ屬スル農民カ私ニ其ノ基業ニ附着セル田地ヲ僧徒或ハ同輩ニ賣却シ自ニ一小屋ヲ殘シテ住居シ之ニ由テ「センシユ」税ヲ規避スルモノ鮮ナカラサルニ依リ此ノ惡弊ヲ矯正シテ舊立ノ制度ニ回復スヘキヲ命令セリ此ノ敕令ヲ見テモ「センシユ」税ハ特リ奴隸ニ限レルモノタルヲ知ル可シ

以上論述スル處及ヒ下文ニ引用スル諸條款ニ由リテ

「セ」ンシユ「ス」税ハ決シテ一國普通ノ制度ニアラサルヲ  
明白ナリ若シ之ヲ然リトセサレハ右集會法例ニ前ニ  
「セ」ンシユ「ス」税ヲ依法ノモノト認メテ徵收シタル諸地  
ニハ王家ノ「セ」ンシユ「ス」ヲモ賦課スヘシトノ趣意ニ符  
合セス又甲列曼帝カ特ニ理事官ニ命シテ往日王室ノ  
采地ニ屬セル諸「セ」ンシユ「ス」税ヲ審査セシメタル法例  
ノ趣意ト之ヲ徵收セル後ノ處分ニ係ル法例ノ趣意ニ  
符合セス其他誰何ニ拘ラス貢地ヲ所有スルモノニハ  
「セ」ンシユ「ス」税ノ賦課スヘキ慣例ナリトノ集會法例並  
ニ禿王甲列カ制定スル太古以來王家ニ附屬スル「セ」ン  
シユ「ス」貢進ノ土地ヲ列記スル法例ノ趣意ニ符合セ「ス」

勿々ニ看過スルハ予カ前ニ論スル處ト相及スルカ  
如キヲ覺ユト雖モ其實ハ却テ之カ確証ヲ示スヘキ條  
款尠ナカラス既ニ記セル如ク王國ノ自主民ニ一定ノ  
車馬ヲ供給スル義務アルヲモ亦爰ニ引用セル法例  
ニ於テハ齊シク「セ」ンシユ「ス」ト名ヲ下シテ之ヲ奴隸ノ  
貢納セシモノニ相對セシメタリ

加之ピスト府ノ敕令ニ自主民カ人頭住家ニ就テ王室  
ニ「セ」ンシユ「ス」税ヲ納ムルノ義務ヲ負ヒ且ツ饑饉ノ際  
ニ其ノ身ヲ鬻キンモノヲ命ニ依リテ收贖セシメ「フ」記  
セリ蓋シ國王ノ特許狀ヲ以テ奴隸ノ身ヲ脱セル人ハ  
概ノ之ヲ言ヘハ未タ完全ナル自由權ヲ得ス舊ニ仍テ

尚小人頭ノ「センシユ」税ヲ納ムルニ因テ茲ニ所言ノ  
自主民ハ乃チ此ノ新民ヲ指スモノナリ

於是夫ノ羅馬人ニ倣フテ普通ノ制度ヲ設ケテ「センシ  
ユ」税ヲ徵收シ此ノ「センシユ」税ヲ徵收スルニ由テ  
諸侯伯ノ權理ヲ強奪ニ出タリト爲スノ臆説ヲ説破セ  
サル可ラス而シテ此ノ「センシユ」ナル一語ノ訛謬ハ姑  
ク置キ佛朗克ニ於テ此ノ稱呼アルモノハ全ク主公ヨ  
リ奴隸ニ賦課シタル税歟ニ外ナラサルナリ

斯ク許多ノ古典ヲ援キ來リテ讀者ノ厭倦ヲ招クハ予  
カ本意ニ非サレバ奈何セン始終予カ意見ト相反スル  
アツベドボスカ著述セル高廬地方ニ佛朗克人建國論

ノ如キアルヲ是レ縷々辯論シテ之ヲ解明スル所以ナ  
リ凡ソ學問ノ進路ヲ妨クルモノハ大家ノ謬見ヨリ甚  
シキハナレ故ニ之ヲ講説スル前ニ必ス其ノ謬見ニ陷  
井ルヲ防カサル可ラス

第十六回 封田ノ主公即チ受封ノ臣ヲ論ス  
日耳曼人中ニ義勇兵アリ好テ君長ニ從テ諸方ノ征伐  
ニ出陣セシ「ハ既」ニ前文論セルカ如シ上國ヲ征服シ  
タル後モ此ノ風俗尚ホ行ハレテ止マヌ多西土ハ之ニ  
伴侶ノ名ヲ下シ撒利律ニハ國王ニ忠勤ノ誓ヲ立タル  
士人ト稱シマルキユルスノ例記ニハ國王ノ「アントル  
スチオス」(忠信ノ士)ト號シ佛蘭西ノ古史ニハ「リウド」ト呼



ヒ輓近ノ史家ハ受封ノ臣及ヒ地主ノ稱ヲ與ヘタリ  
撒利里布利ノ法律中ニ於テ屢々佛朗克人ニ係レル規  
則ヲ見ルト雖<sup>ル</sup>「アントルスチオ」ニ係ルモノヲ見ル  
ハ實ニ寥々タリ蓋シ「アントルスチオ」ニ係ル規則ハ  
全ク自餘ノ佛朗克人ニ係ルモノト其ノ趣全ク相異ナ  
リテ佛朗克人ノ財産ヲ處分スル方法ヲ掲記スレ<sup>ル</sup>更  
ニ「アントルスチオ」ノ財産ニ就テ一欸ヲモ掲記スル  
「ナシ」是レ「アントルスチオ」ノ財産ヲ處辨スルハ民  
法ニ於ルヨリモ寧ロ政法ニ於ルモノ多キニ居リ殊ニ  
其ノ財産ハ兵士ノ得分ニ属シテ父祖傳襲ノ家産ニア  
ラサレハナリ

封田ノ領主ノ爲メニ殘ス所ノ物品ヲ或ハ「アイスカル  
グ」<sup>物</sup>ト云ヒ或ハ「ベ子」<sup>子</sup>フイセ<sup>邑</sup>或ハ「<sup>食</sup>ノール」<sup>ス</sup>  
恩或ハ封田ト呼フ記者及ヒ時世ノ相同シカラサルニ  
依リテ一定セス  
封田ハ其ノ初メ全ク國王ノ隨意ニ與奪スル所タリシ  
ハ「トール」<sup>ス</sup>ノ「グレゴリー」<sup>カ</sup>著書ニス子ギ<sup>ル</sup>ス及ヒ  
ガルロマヌスノ封田ヲ悉ク剝奪シテ唯タ眞有ノ財産  
ノミヲ留存セシ「<sup>フ</sup>」<sup>記</sup>セルヲ見テ明カナリ又ゴント  
ラムカ其ノ侄チルデベルトヲ王位ニ即カシムル<sup>ハ</sup>叔  
侄相會シテ封田ヲ賜フヘキ人ト之レヲ奪フヘキ人ト  
ヲ密議シタリ又マルキユルフスノ例記ニ據レハ國王

ハ其ノ固有ノ田地ハ論ヲ俟タス他人ノ所有セル土地  
ヲモ交換スルヲ得タリト又倫巴多人ノ法律ニ食邑  
ヲ財産ト區別セリ是レ乃チ我カ史人例記諸蕃民ノ法  
典及ヒ當時ノ古文書皆ナ同説ニシテ一ノ異議ナキ所  
以ナリ之ヲ要スルニ最初封田ハ全ク主公ノ意ニ隨テ  
與奪シタリシモ其後ハ一年ヲ期シテ之レヲ授與シ竟  
ニ終身ノ所有ト爲レリ

## 第十七回 自主民ノ兵役ヲ論ス

兵役ノ義務ヲ負フ人民ニ二類アリ其一ハ受領セル封  
田ノ爲メニ服役スル所ノ大小臣屬ト其一ハ佛朗克人  
羅馬人或ハ高廬人タルニ拘ラス都テ自主民タルモノ

ハ州牧ノ麾下ニ屬シテ州牧及ヒ其ノ士官ノ号令ヲ奉  
セサル可ラサル是レナリ

抑モ自主民トハ一方ニ於テハ食邑封田ヲ受領セス一  
方ニ於テハ奴隸ノ賤業ヲ執ラサル人ノ名稱ナリソノ  
所有スル土地ヲ私有地ト謂フ

易牧ハ自主民ヲ募リ之ヲ引率シテ敵軍ニ發向ス易牧  
ノ下ニ副司ト稱スル士官アリテ之ヲ指揮ス自主民ハ  
都テ一百人ヲ分テ一團ト爲スヲ以テ一團ニ亦タ一士  
官ヲ置キ之ヲ百長ト名ク

百人ノ自主民ヲ一團ニ編成スルハ佛朗克人カ高廬  
ニ建國セル後ノ制度ニシテクロタリウス、チルテベル

ト二王ノ設立スル所ニ係レリ其ノ趣意ハ各地方ヲシテ其ノ管内ニ盜賊等ノ警アルニ方テ其ノ責ヲ保任セシムルニ在リ英國ニ於テハ今日ニ至ルマテ尚ホ之ニ類似セル法制アリ

易牧カ自主民ヲ率井テ出陣スルカ如ク有土ノ候伯ハ受封ノ臣及ヒ倍隸ヲ引率シ僧正僧長及ヒ其ノ代理官ハ各其ノ臣屬ヲ引率ス

僧正等ハ大ニ兵馬ノ事ニ預カルヲ厭ヒ且ツ教門ノ清規ニ悖ルヲ以テ嘗テ兵役ノ義務ヲ免除セラレシヲ甲列曼帝ニ請願シテ允可ヲ得タリ然ルニ公衆ノ尊敬ヲ剥取セラレタリト却テ怨言ヲ吐クニ依リ帝ハ之

カ爲メニ其ノ趣意ヲ述ヘテ決シテ然ラサル旨ヲ告示セリ其ノ真偽知ル可ラスト雖モ僧正等カ出陣ノ免除ヲ得タル後ハ易牧ニ於テ其ノ臣屬ヲ引率セシヲ見ス國王或ハ僧正ヨリ受封ノ臣一名ヲ撰ヒテ之ヲ指揮セシメタリ

路易王第一世ノ集會法例ニ受封ノ臣ヲ國王ニ屬スルモノ、僧正ニ屬スルモノ、州牧ニ屬スルモノ等之ヲ三類ニ區別セリ而メ有土ノ候伯ニ屬スル受封ノ臣ニ至テハ王室ノ事務ニ依リテ候伯躬カラ之ヲ指揮シ能ハサル時ノ外ハ易牧之ヲ引率シテ出陣スルヲナシ然ラハ則チ有土ノ候伯ヲ引率シテ戰場ニ赴クハ果シ

テ何人ナルヤ、其ノ常ニ忠義アル封臣ヲ指揮スル所ノ  
國王タルハ答ヲ俟スシテ知ルヘシ、是レ絶エス集會  
法例ノ中ニ國王ノ封臣ト僧正ノ封臣トヲ區別スル所  
以ニシテ我カ諸王ノ如キ慷慨磊落ノ英雄ハ決シテ寺  
領ノ民兵ニ頼リテ征伐ノ師ヲ起シ此輩ト生死ヲ俱ニ  
スルヲ屑シトセサルヲ以テ終ニ之ヲ率テ戰場ニ赴  
キシヲナキナリ

有土ノ候伯カ其ノ封臣及ヒ倍隸ヲ從ヘテ戰場ニ起キ  
シハ甲列曼帝ノ集會法例中ニ各自主民ニシテ四區  
ノ土地ヲ私有シ或ハ之ヲ他人ヨリ受領スルモノハ敵  
地ニ進發シ或ハ其ノ主公ニ隨行スヘキ旨ヲ掲クルニ

由テ証明スルニ足ルヘシ蓋シ帝ノ趣意ハ私有ノ田地  
アルモノハ州牧ニ從テ進發シ主公ヨリ封田ヲ受領ス  
ルモノハ主公ニ從テ出陣スヘシトナリ

アツヘドボスハ集會法例中特別ノ主公ニ属スル借地  
人ノ事ヲ論スルニ方リテ奴隸ヲ除キテ他ニ之ヲ指ス  
モノ無シト臆定シタリ此說ハ原ト西義特人ノ法律ト  
其ノ慣例ニ由來シテ發スル所ナリト雖氏集會法例ニ  
據ルノ更ニ適切ナルニ若カス予カ茲ニ引用セシ所ノ  
モノハ全ク反對ノ點ニ出タリ又タ禿王甲列カ其ノ兄  
弟ト結ヒタル盟約ニモ自主民ハ主公ナリ國王ナリ自  
己ノ隨意ニ從軍スヘキ人ヲ撰定スヘキヲ記載セリ

此ノ如キ規則ハ大ニ自餘ノモノニ符合スルヲ見ル

據此觀之則チ兵役ニ三種ノ別アリ其一ハ倍隸ヲ蓄ハ  
ス直ニ國王ノ封臣ニ係ルモノ、兵役其二ハ僧正其他  
ノ僧侶及ヒ其ノ封臣ノ兵役其三ハ自主民ヲ指揮スル  
州牧ノ兵役是レナリ

然レ此封臣ハ亦タ州牧ノ号令ヲ遵奉セサル可ラス蓋  
シ一方面ヲ指揮スルモノハ全軍總督ノ大任アル人ニ  
從屬セサル可ラサルカ故ナリ

州牧及ヒ王室ノ理事官ハ受封ノ臣ニシテ其ノ受領ス  
ル封田ノ義務ヲ履行セサルモノニ罰鍰ヲ課定ス可シ  
又國王ノ封臣ニシテ約束ヲ守ラス非違ヲ犯スアレハ

直チニ國王ヨリ懲責ヲ受クルヲ請求スルニアラサ  
レハ州牧ニ於テ之レヲ懲責ス可シ

第十八回 復役ノ法ヲ論ス

凡ソ他人ノ兵權ニ服從スルモノハ必ス復タ其ノ政權  
ニモ服從セサル可ラサルハ則チ立君政ノ大則ニシテ  
是レ八百十五年制定ノ路易王第一世ノ集會法例ニ  
勅ノ兵權ト自主民ヲ治ムル政權ト相對シテ常ニ偏輕  
偏重ノ弊ナカラシムル所以ナリ是レ自主民ヲ從軍セ  
シムル命令ヲ掌トル勅牧ノ官衙ヲ自主民ノ裁判所ト  
呼フ所以ナリ而シテ人民ノ自由權ニ關係スル諸訴訟ハ  
特リ勅牧ノ裁判所ニ限リテ之ヲ判決スルヲ得ヘク屬

吏ノ法院ハ之ニ干涉スルヲ得サルノ法訣モ茲ニ由來  
スル所タルヤ疑フ可ラス故ニ教正僧正ノ封臣ハ易牧  
ノ政權ニ服從セサルヲ以テ易牧之ヲ率テ進發スル  
能ハサルニ因リ易牧ハ絶テ國王ノ封臣ニ屬スル倍隸  
ヲ指揮セシメナシ故ニ英國法律ノ語類集ニ索遜人カ  
ゴブルスト呼ヒシ所ノモノハ即チ諾爾曼人カ  
ト即チ伴侶ト稱スル所ノモノニシテ國王ト俱ニ裁判  
上ノ罰鍰ヲ配分セルヨリ此ノ稱呼ヲ得タリ見ル可シ  
封臣カ其ノ主公ニ對シテ始終盡スヘキ義務ハ兵器ヲ  
執リテ敵地ニ進發スルト其ノ法廳ニ出テ同輩ヲ審  
問スルトニアルヲ

斯ノ如ク易牧カ法權兵權ヲ並有スル所以ハ自主民ヲ  
率井テ進軍スルニ臨テ財賦ヲ徵取セルニ由レリ右財  
賦トハ自主民ヨリ貢納スル車馬費及ヒ裁判上ノ收益  
ノ如キ是レナリ尚ホ下文ニ論述スル所ヲ見ルヘシ  
主公カ其ノ封田ニ於テ裁判權ヲ所有スルハ猶ホ州牧  
ノ其ノ管内ニ於ルト一般ナリ故ニ時世ノ變遷ニ從テ  
地方ノ法制同シカラサルハ常ニ封田ノ沿革ニ倣フテ  
然ルモノニシテ彼此共ニ同一ノ方法ニ依リ同一ノ主  
義ニ率由スレハナリ之ヲ要スルニ易牧ノ其ノ管下ニ  
於ルハ主公ノ其ノ封田ニ於ルニ異ナラス主公ノ其ノ  
封田ニ於ルハ易牧ノ其ノ治州ニ於ルニ異ナラス

易牧ヲ民政ノ官吏ト爲シ易公ヲ將軍ト爲スハ誤解甚  
 タシト云フヘン易牧易公共ニ均シク文武兼帶ノ大吏  
 ナリ唯タ州公ハ其ノ下僚トシテ數多ノ州文ヲ管轄ス  
 ルノ異アルノミニテ其ノ權限ニ至テハ全ク州牧ト相  
 同シク宛モ上ニ州公ヲ戴カサル所ノ州牧ノ如シ  
 當時佛朗克人カ其ノ官吏ニ文武總督ノ全權ノミナラ  
 ス度支ノ要任ヲモ兼帶セシムルヲ視レハ以テ其ノ政  
 体ノ峻烈ナルヲ想像ス可シ是レ則チ予カ前面ニ專暴  
 政ノ真面目ナリト論述セシ所以ナリ  
 然レモ易牧ハ親ラ裁判ヲ宣告セス又土耳其ノ執政官  
 ノ如ク訟獄ヲ審理セス若シ訟事起レハ州牧ハ特ニ名

望アル紳士ヲ召集シテ一種ノ審會ヲ開カシメタリ  
 例規集成諸蕃民ノ法律及ヒ集會法例ノ諸書ニ就テ訴  
 訟章程ニ關係スル條款ヲ熟知セント欲セハ必ス先ッ  
 州牧トゾラヒヲ即チ度支ニ屬スル法官及ヒ百夫長ト  
 ハ其職任全ク相同シク且法官ヲチムビユルゲル及ヒ  
 州判ハ其ノ名目ヲ異ニスレモ必竟一人ノ兼官タルヲ  
 ヲ看破セサレハ熟知ニ至ル能ハス此ノ諸官吏ハ州牧  
 ノ佐官ニシテ通例七員ヨリ成立スルヲ以テ州牧カ審  
 會ヲ開クニ方リテ十二名ヲ要スルモハ別ニ名望アル  
 紳士五名ヲ加ヘテ其ノ缺員ヲ補フナリ  
 國王ナリ州牧ナリクフヒヲナリ百夫長ナリ主公ナリ

又ハ僧侶ナリ皆ナ單身法庭ニ坐シテ訴訟ヲ審理セシ  
テ絶テ無シ此ノ慣習法ノ淵源ヲ尋ルニ遠ク日耳曼ノ  
森林地方ニ發シテ封建ノ制一變セル後ニ至テモ尚ホ  
依然トシテ相存セリ

財賦ノ權ニ至テハ制度甚タ嚴密ニシテ州牧濫ニ之ヲ  
増減スルヲ能ハス又國君ノ自主民ニ臨ムノ權力モ極  
メテ簡易ニシテ繁苛ナラス既ニ論セシカ如ク有事ノ  
日ニ當リ自主民ニ課シテ一定ノ車馬ヲ供給セシムル  
ニ過キス裁判權ノ如キハ別ニ罪過防制ノ法律アリ

## 第十九回 諸蕃民ノ私和金ヲ論ス

預シノ日耳曼人民ノ法律風俗ニ熟通セサレハ以テ我

カ政体組織ノ元素ヲ知ル可ラサルカ故ニ茲ニ姑ラク  
論鋒ヲ轉シテ先ツ其ノ風俗法律ヲ講究ス可シ

多西土ノ風俗紀ニ據レハ日耳曼人中ニハ死刑ヲ以テ  
罰スヘキ公罪ハ唯タ二種ニ過キス即チ叛逆人ヲ絞刑  
ニ處シ卑怯ノ者ヲ溺殺ス是レナリ若シ夫レ甲人乙人  
ヲ傷害スルヲアレハ被害者ノ親戚忽チ出テ、償金ヲ  
納メテ其ノ罪ヲ收贖セシム此ノ償金ハ必ズ被害者ニ  
付與ス可シ若シ被害者死亡スルキハ相續人ノ得ル所  
ト爲ル或ハ傷害特リ本人ニ止マラスシテ親戚ニモ波  
及スルキハ親戚ニ其償金ヲ收ムルナリ

多西土ノ記スル所ニ從ヘハ此ノ償金ハ全ク甲乙二人



ノ協議ニ依リテ決定スルモノナレハ之ヲ諸蕃民ノ法典ニテ私和金ト稱ス

然ルニ特リ弗里斯人ノ法律ニ限リテ人民ヲシテ太古鴻荒自然ノ境況ニ止マランノテ問ハサルヲ以テ若シ甲乙ノ家族一旦嫌隙ヲ生シテ互ニ和セサルキハ之ヲ自然ノ行爲ニ放任シ去リテ更ニ政法民法ノ之ヲ約束スルナキカ故ニ一定ノ補償ヲ得ルマテハ各自ノ腕力ニ伏リテ報復ヲ圖リテ鬱忿ヲ洩スヘシ其ノ法律ニ稍改良セル時ニ至リテモ尚ホ仇人ヲ得テ甘心セント欲スルモノヲ約束シテ仇人ノ家居ニ闖入ス可ラス之ヲ寺院往還ノ途中ニ襲フ可ラス現ニ審問ヲ加フ裁判廳

ノ出入ヲ要撃ス可ラス等ノ規則ヲ制定セリ

撒利律ノ編輯者佛朗克人ノ舊慣法ヲ引テ曰ク墳墓ヲ發テ死屍ノ服飾ヲ褫奪スルモノアレハ其親族ノ許容ヲ得ルマテ之ヲ社會ノ外ニ放逐シテ俱ニ齒セス且此際ハ嚴命ヲ下シテ妻子ノ親ト雖氏之ニ一片ノ食ヲ與フヲ許サス之ヲ家中ニ容留スルヲ許サス故ニ和議全ク整フテ赦免ヲ得ル迄ハ人間ノ交際全ク斷絶シテ殆ト性法自然ノ境況ニ居ラシムルカ如シ此ノ一事ヲ除キ其他ニ至リテハ諸蕃民中ノ先生長者ニ於テ原被ノ私和ヲ俟ツニ遑アラス且私人ニ放任シテ安心ス可ラサル事件ヲ收攬シテ親ヲ裁判ヲ下サン

ト欲シ乃チ被害者ニ収ムヘキ私和金額ヲ決定シタリ斯ク制定シタル諸蕃民ノ法律ハ頗ル精密ヲ極メテ大ニ觀ルヘキ所アリテ詳カニ事故ノ大小ヲ分チ情實ノ輕重ヲ酌量シ而シテ法律ノ精神ヲシテ全ク被害者ノ地位ニ當ラシノ被害者ニ代リテ其ノ熱心シテ要求スルト同様ノ償金ヲ徵取セシノタリ

此ノ法律ノ制定ニ至テ曰耳曼ノ諸國民始メテ多西土ノ風俗紀ヲ著セル時ノ性法自然ノ境況ヲ脱去セリ倫巴多人ノ法律中ニ魯達利王ハ從來負傷者ニ與フ所ノ私和金ヲ増加セシ所以ヲ宣言シテ曰ク是レ負傷者ヲシテ満足スヘキ償金ヲ收ノシムルニ非サレハ以ニ

永ク復讎ノ念ヲ絶タシムヘカラサレハナリト實ニ倫巴多人ノ如キハ最初貧小ノ部落ヨリ勃興シ遂ニ伊太利ヲ征服シテ富強ヲ極メタルカ故ニ旧慣ノ私和金ハ額數輕少ニシテ以テ被害者ノ意ヲ慰解スルニ足ラス其他ノ諸蕃民カ建國以來漸ク法典ヲ改定シテ今日現行ノ法制ニ推移シタルモ其ノ原由全ク茲ニ在ルヲ決シテ疑フ可ラス

私和金ノ重要ナルモノハ即チ殺害人ヨリ死者ノ親戚ニ納ムルモノ是レナリ而シテ死者ノ身分ノ相異ナルニ從テ金額ニ差等アリアングリ人ノ法律ニ貴人ノ子女ヲ殺スモノハ六百「ス」自主民ヲ殺スモノハ二百「ス」

一は、奴隸ヲ殺スモノハ三十「ス」にノ私和金ヲ納ムルヲ要ス然レハ則チ身價ノ高貴ナルハ其人ノ受用セル特權ノ一部ナリト謂テ可ナリ何トナレハ身價ノ高低ニ因テ人品ノ貴賤ヲ分別スルノミナラス獷悍ナル人民中或ハ之カ爲メニ一身ノ安固ヲ保ツヘケレハナリ右ノ論旨ハ已威畧人ノ法律ヲ見テ一層ノ明瞭ヲ加フ可シ其ノ法律ニ據レハ自餘ノ人民ニ比シテ二倍ノ私和金ヲ得ルヲ已威畧族ト稱ス此ノ民族ニ比シテ更ニ二倍即チ自餘ノ人民ニ比シテ四倍ヲ得ルヲ「アギロルフ」イング「族」ト稱ス「アギロルフ」イング「族」トハ即チ慣例ニ因テ我カ族中ヨリ國公ヲ撰舉スル所ノ名家ナリ

而ノ國公ノ私和金ハ「アギロルフ」イング「族」ヨリモ更ニ三分ノ一ノ多キヲ加ヘタリ是レ其躬既ニ國公ノ位ニ在レハ同族ヨリモ一層ノ尊榮ヲ表スヘキヲ以テナリ

私和金ハ都テ金錢ヲ以テ其ノ價ヲ定メタレハ諸蕃民カ未タ日耳曼ノ本土ニ住居セル頃ニハ通用ノ貨幣ニ乏シキヲ以テ牲畜、禾穀、器物、兵器、鷹犬乃至田地等ニテ之ヲ代納セリ其ノ法律中ニ往々諸物件ノ價ヲ定ムルヲ見レハ乃チ此ノ方便アルカ爲メ斯ク少數ノ貨幣ニテ斯ク多數ノ罰鍰ヲ納ムルヲ得ル所以ナリ故ニ此等ノ諸法律ハ損害ノ度及ヒ罪過ノ輕重ヲ審ニ

斷定スル所ノ章程例圖ニシテ其ノ目的ハ各人ニソノ  
受ケ得タル損害ノ大小ト其ノ収ムヘキ賠償ノ多少ト  
ヲ確知セシメ以テ不當ノ要求ヲ爲サシメサルニ在リ  
此ニ據テ之ヲ視レハ私和金ヲ得ル後ニ尚ホ復讎ヲ謀  
ルモノ、如キハ最モ惡ムヘキ罪人タルヲ知ルヘシ  
果シテ斯ノ如キハ公私ノ二罪ヲ併セ犯スノミナラス  
法律ヲ蔑視スルニ當ルヲ以テ制法者ノ決シテ赦サ  
ル處ナリ

茲ニ又諸蕃民漸ク獨立不羈ノ氣力ヲ失シ君長ハ内治  
ノ改良ニ孜々拮据スル時ニ際シテ殊ニ危險ナリト憂  
慮スル所ノ一罪アルヲ看出シタリ即チ私和金ノ受授

ヲ辭絶スル是レリ諸蕃民ノ法律ヲ閱スルニ一トシテ  
制法者カ必ス此ノ一項ニ注意セサルハ無シ何トナレ  
ハ事實上ヨリ之ヲ言フニ私和金ヲ辭シテ収ノサルモ  
ノハ自ラ復讎ノ權ヲ執行センヲ欲スルナリ之ヲ拒  
テ與ヘサルモノハ被害者ニ復讎ノ權ヲ放任スルナリ  
故ニ目耳曼人カ法制ヲ改良スルニ方テ制法者ハ敢テ  
強迫手段ヲ用井ス人民ヲ勸誘シテ私和金ヲ授受セシ  
メタリ

前ニ撒利律ノ本文ヲ舉テ右制法者カ私和金ノ受否ヲ  
全ク被害者ノ意ニ任セテ法律リ之ニ干涉セス若シ墳  
墓ヲ發キ屍體ヲ裸ニスルモノアレハ親戚ニ私和金ヲ

收ノ而ノ犯人ノ哀願ヲ聽テ罪ヲ赦スマテ交社ノ外ニ放逐セラル、コヲ論述セリ撒利律ノ編者カ斯克依然ト旧慣ヲ存セシハ蓋シ墳墓ハ神物ニ属スルヲ以テ尊敬ノ意ヨリ終ニ之ヲ改革セサルニ由ル

現行ノ場ニテ殺サレタル盜賊ノ親戚或ハ姦罪ヲ犯セシムルカ爲メニ離別サレタル婦女ノ親戚ニ私和金ヲ得セシムルハ條理ニ於テ許サ、ル所ナリ故ニ巴威畧人ノ法律ハ如是場合ニ於テ決シテ私和金ヲ收メシメ又親戚ノ復讐ヲ圖ルモノヲ懲罰セリ

巴威畧人ノ法律中ニハ往々過悞ノ行爲ニ就テ私和金ヲ納メシムルコトヲ見レ、倫已多人ノ法律ハ概シテ一

層ノ慎密ヲ加ヘタレハ凡ソ過悞罪ノ私和金ハ全ク犯人ノ度量ニ應シテ多少ヲ定メシム然ル上ハ被害者ノ親戚之カ復讐ヲ圖ルコトヲ許サス

格魯達利王第二世ノ制令ハ極メテ明良ナリ即チ強盜ニ遭フ人ニ裁判官ノ命ヲ得スシテ竊カニ私和金ヲ收ムルコトヲ禁止セリ此ノ法律ノ精神ハ下文ニ詳論スヘシ

第二十四 後世ニ所謂主公ノ裁判權ヲ論ス人ヲ殺シ或ハ損害ヲ加ヘタルカ爲メニ被害者ノ親戚ニ納ムヘキ私和金ノ外更ニ復タ諸蕃民ノ法典ニ於テアレデユムト名クル一種ノ罰鍰ヲ徵取セラル今日通

用ノ國語ニテ之ヲ説明スヘキ妥當ノ譯字アラサレ氏  
其ノ大意ヲ撮リテコノ字義ヲ鮮明スレハ則チ被害者  
ノ復讐權ヲ抑制シテ以テ犯人ヲ保護セルノ報酬ト謂  
テ可ナリ現ニ瑞典ノ國語ニテハ「フレツト」ヲ和平ノ義  
ト爲ス

粗野不文ナル國民ノ裁判章程ハ特リ犯人ヲ保護スル  
カ爲メニ被害者ノ復讐權ヲ抑制シ而シ之ニ相當ノ私  
和金ヲ收メシムルニ外ナラス是レ日耳曼人カ自餘諸  
國民ノ慣法ニ相反シテ被害者ヲ抑制シ以テ犯人ヲ保  
護スルカ爲メニ裁判法ヲ設クル所以ナリ  
諸蕃民ノ法典ニ「フレダ」ヲ納ムヘキ案件ト否ラサルモ

ノトヲ明記シテ若シ初メヨリ親戚ニ復讐權ヲ有セサ  
ルキハ乃チ「フレデュム」ヲ納ムルヲナシ是レ犯人復讐  
ヲ受クルノ患ナケレハ更ニ保護ヲ買フ所ノ報酬金ヲ  
要セサルヲ以テナリ故ニ譬ヘハ倫巴多人ノ法律ニ若  
シ誤リテ自主民ヲ殺ス「アレハ」犯人ハ唯タ死者ノ身  
價ヲ償フノミニテ別ニ「フレデュム」ヲ納ムルヲナシ其  
ノ故ハ固ト惡意アリテ然カルニ非ス全ク誤殺ニ係ル  
ヲ以テ決シテ親戚ニ復讐權ヲ許スヘキ案件ニアラサ  
レハナリ故ニ又里布利人ノ法律ニ若シ一個ノ木棍或  
ハ人製ノ械具ノ爲メニ非命ノ死ヲ致ス「ハ」乃チ其ノ  
械具或ハ木棍ヲ致命ノ兇器ト認メ之ヲ親戚ニ沒收シ

テソノ所有ト爲スノミニテ更ニ「フレデュム」ヲ要求スルヲナシ

之ニ齊シク若シ獸類人ヲ殺ス「アレハ右法律ニ於テハ唯ク主人ヨリ私和金ヲ得ル而已ニテ」  
「フレデュム」ヲ納ムルヲナシ是レ死者ノ親戚ニ於テ怨ヲ報スヘキ仇人アラサレハナリ

又撒利律ニ十二歳未滿ノ童子ハ過悞ノ罪ヲ犯スモ「フレデュム」ヲ納メス唯ク私和金ヲ出スニ止マルヲ掲記セリ是レ該童子ハ未タ兇器ヲ執ルニ堪ヘサルヲ以テ被害者或ハ親戚タルモノ之ニ對シテ要償ヲ求ムルノ權アラサレハナリ

抑モ犯人ハ或罪ヲ犯スニ依リテ一身ノ安全ヲ失シ而メ法律ノ保護ニ頼リテ之ヲ回復スヘキモノナレハ其ノ購ヒ得ヘキ安全ノ爲メニ「フレデュム」ヲ納付セサル可ラス然レモ童子ニ至テハ未タ一個人ニアラス固ト社會ノ交ヲ爲サレハ更ニ此ノ安全ヲ失フヲナシ故ニ「フレデュム」ヲ納ムルヲ要セス

「フレデュム」ハ原ト該區ノ裁判官タルモノカ收受スヘキ地方ノ利得ニ屬シタリ然レモ里布利人ノ法律ニハ裁判官ノ親カラ之ヲ要求スルヲ禁止シテ訴訟ニ勝ツ者之ヲ收メテ度支官ニ交納スヘキ旨ヲ掲記セリ即チ右法律ニ永遠ノ平和ヲ企圖スルカ爲メト謂フ是

レナリ

アレデユムノ金額ハ保護ヲ加フヘキ度數ニ比例シテ増加ス故ニ國王ノ保護ヲ受クヘキアレデユムハ諸侯伯其他裁判官ノ保護ヲ得ルニ於ルヨリモ一層大額ナルヲ要ス

爰ニ主公ノ裁判權ノ濫觸ヲ講究ス可シ抑モ封田ナルモノ、區域甚ク廣大ナルハ諸記錄ニ掲クルカ如シ而シテ國王ハ絶テ佛朗克人ニ割與セル土地ヨリ租税ヲ收メス尚ホ更ニ諸侯伯ノ封田ニ就テハ何等ノ税歛ヲモ徴取スルヲ能ハサルカ故ニ封田ノ主公ハ其ノ土地ヨリ所生ノ一切利得ヲ以テ全ク自己ノ享用ニ供ヒリ然

リ而シテ封田ニ附屬セル利得ノ最モ大ナルモノハ佛朗克人ノ慣例ニ從テ徴取スル所ノ裁判上ノ利得即チ「フレグナリ」故ニ苟クモ封田ヲ有スル人ハ復タ裁判權ヲ兼帶シ之ニ因テ以テ親戚ニ與フヘキ私和金ヲ判定シ且自ラ領收スヘキ利得ヲ徴課セリ約シテ之ヲ言ヘハ法律上ノ私和金ヲ出サシメ且ツ依法ノ罰鍰ヲ課定スル是レナリ

例規集成中ニ有土侯伯ノ爲メニ其ノ封田ヲ世襲ニスルヲ確定シ或ハ寺院ノ爲メニ其ノ封田ノ特准ヲ確定スル文言ニ此ノ權理ヲ持有セル封田アルヲ視ル而已ナラス復タ數多ノ免許狀中國王ノ裁判官吏カ諸裁



判ノ事ニ干涉シ或ハ裁判上ノ利得ヲ要求スルカ爲メ  
ニ封田ノ域中ニ入ルヲ禁止スル條下ニ於テモ亦之  
ヲ見タリ而メ國王ノ裁判官カ要求ヲ封田ノ域中ニ及  
ホス能ハサルノ禁令一タヒ行ハル、ヤ其ノ權ハ永ク  
放失シテ再興セス遂ニ裁判官ノ職務ハ都テ地主ノ執  
行スル所ト爲レリ

國王ノ裁判官カ原被両造ヲ要シテ出廳ノ保証ヲ立シ  
ムルヲ禁止セシカ故ニ其權遂ニ封田ヲ領有スル人  
ニ歸シ而メ又國王ノ辨事官ハ強テ宿所ヲ辨備セシム  
ルヲ能ハサルヲモ記載セリ之ヲ要スルニ該官吏ハ  
既ニ地方ニ從事スヘキノ職務ヲ失ヘリ

是故ニ受封ノ新古ニ拘ラス凡テ裁判執行ノ權ハ封田  
ニ附着セルモノニシテ即チ其ノ收益ノ一部ヲ爲セリ  
是レ古來此ノ見点ヲ以テ裁判權ヲ觀ル所以ニシテ佛  
蘭西ノ法訣ニ裁判權ヲ父祖世襲ノモノトスルモ全ク  
茲ニ原回セシナルヘシ

或說ニ裁判權ハ其初メ國王地頭カ其ノ奴隸ヲ解放シ  
テ自主民タラシムルニ由來スト爲セリ但シ奴隸ヲ解  
放セシハ獨リ曰耳曼ノ國民及ヒソノ苗裔ニ限ルニ非  
サレモ裁判ノ世襲權ヲ創定セシハ蓋シ曰耳曼ノ國民  
ノミ然リトス加之マルキユルフスノ例規集成中ニ往  
古ハ自主民ニシテ此ノ裁判權ニ服從セシヲ記スル

ヲ見レハソノ奴隸カ封内ニ居住スルヲ以テ之ニ服從  
セシハ更ニ論ヲ俟タサレモ決シテ封田ニ附屬スルニ  
由テ起ルニ非サルナリ

他ノ一説ハ速了ノ見ヲ下シテ裁判權ノ執行ヲ以テ全  
ク地頭カ國王ヨリ僭奪セルニ由ルト謂フト雖モ古今  
ノ史乘ヲ歴覽スレハ滔々タル天下概テ皆テ君權ヲ僭  
奪セサル無シ何ソ獨リ之ヲ日耳曼人ノ苗裔ニ限ルハ  
キヤ然ルニ他ノ國民ニ於テハ未タ曾テ地頭ノ裁判權  
ト稱スルモノアルヲ聞カス是レ裁判權ノ濫觴ハ全ク  
日耳曼人ノ風俗慣習ニ淵源スト謂ハサルヲ得ス  
ロイソウノ言論ヲ喜フカ如キ好奇ノ士ハ必ス彼ノ揣

摩ノ見ヲ逞クシテ地頭カ裁判權ヲ僭奪セル顛末ヲ記  
ス書ヲ見テ一驚ヲ吃スナルヘシ果シテ氏カ憶測ノ如  
クナラシメハ地頭タルモノハ世界無比ノ奸民ニシテ  
其ノ僭取掠奪ノ状ハ更ニ尚武ノ風俗ヲ顧ミス恰モ猶  
ホ僻地ノ裁判官代訴人カ互ニ争フテ詞訟ヲ包攬スル  
ノ醜態ニ異ナラスト謂フ可キカ此ノ武士ヲ以テ一國  
ノ諸州ハ勿論其他歐土ノ諸邦ニマテ能ク政圖ノ通則  
ヲ制定セシト謂フ可キカロイソウノ論理ハ扨上ノ空  
談タルヲ免レス

若シ又裁判權ヲ封田ノ附屬ニ非スト爲サハ夫ノ受封  
ノ田ノ爲メニ國王或ハ主公ニ竭スヘキ義務ハ到ル所

トシテ法廳ニ參座シ大施ニ随テ出軍スルノ二事ニ在  
ラサルナキハ何ソヤ

第二十一回 寺院ノ領地裁判權ヲ論ス

我カ諸王嘗テ寺院ニ地主ノ權即チ廣大ナル封田ヲ賜  
フニ依リテ忽チ其ノ領内ニ裁判權ヲ設立シ大基業ヲ  
成スニ至レリ斯ク非常ナル特准ヲ得タルハ皆ナ王室  
ノ賜與ニ原因スレド必竟寺院所屬ノ土地ニ此ノ特權  
ヲ一賜シタル後絶テ之ヲ收回スルヲ知ラサルノ致ス  
所ナリ而シテ其ノ寺院ニ地主ノ權ヲ與フルヤ全ク之ヲ  
勲功アル封臣ト同視シ一樣ノ特准ヲ享用スルヲ許  
スノミナラス其ノ權理ニ就テ國家ニ對セル義務ノ如

キモ亦前ニ論セシ如ク之ヲ俗人ニ賜與セルモノト齊  
シク負擔セシメタリ

然ルヲ以テ寺院ハ其ノ領内ノ人民ニ私和金ヲ納メシ  
メ「フレデユム」ヲ要取スルノ權理ヲ占有ス一タヒ此ノ  
權理アル以上ハ此ノ「フレデ」ヲ徵收シ且裁判執行ノ爲  
メニ國王ノ官吏恣マニ領内ニ入ルヲ抑止スヘキ  
權理ヲ兼有スルニ至ルハ必然ノ勢ナリ斯ク僧徒カ其  
ノ領内ニテ裁判執行ノ權ヲ持有スルヲ免許狀ノ例  
記集會法例ニ於テ「イム」ニ「ユニチ」特典ト稱セリ

里布利人ノ法律ニ據レハ原ト寺院ノ奴隸ニシテ自主  
民ト爲ル者カ其ノ解放ヲ得タル寺院ノ領外ニ於テ裁

判執行ノ爲ニ集會スルヲ禁止セリ然レハ則チ寺院ハ解放シタル奴隸ノ訴訟ヲ裁判シ建國ノ初ニハ自主民ノ「ラシタ」裁判ヲモ開キタルヤ明カナリ

高僧傳ノ中ニ格羅味王カ教門ノ人ニ寺院ヲ繞ル六里以内ノ地ニ於テ裁判執行ノ權ヲ賜與シテ一切該地方ノ裁判權ニ服從スルヲ免除セルヲ記セリ予ハ之ヲ古來ノ虚説ト確信ス然リト雖モ右傳中ニ記ス所ノ事ハ真偽ニ拘ラス都テ當時ノ風俗法律ニ関涉スルモノナレハ吾人ノ將ニ講究スヘキ處ナリ

格魯達利王第二世ハ遠隔ノ地ニ封田ヲ領有スル僧官貴族ニ命シテ右地方ニ於テ裁判ヲ執行シ裁判上ノ利

得ヲ徵取スヘキ人ヲ撰定セシメタリ

該王ハ亦寺院ノ裁判廳ト王室ノ官吏トノ間ニ裁判權ノ區域ヲ分畫セリ乃チ八百零二年ニ議定セル甲列曼帝ノ集會法例ニ依リテ僧正僧官ニ其ノ裁判官タルニ缺ク可ラサルノ資格ヲ指令シ更ニ他ノ集會法例ヲ以テ彼ノ寺領ノ農民ト詐稱シ及ヒ國課ノ徵征ヲ免レシカ爲ノ寺領ニ入ルモノヲ糾査スル外王室ノ官吏カ寺領ノ地方ニ入リテ裁判ヲ執行スルヲ禁止シ又レイムスノ僧官集會ニ於テ各寺領ニ附屬セル封臣ハ僧侶ト齊シク諸般ノ免除ヲ得ヘキト布告シ又八百零六年ニ議定セル甲列曼帝ノ集會法例ニ寺院ハ其ノ領

内ニ住ム人民ノ刑事民事ヲ裁断スル權理アルヲ明  
示セリ之ヲ要スルニ禿王甲列ノ集會法例ニ國王地主  
及ヒ寺院ノ裁判權ヲ判然分畫セルヲ以テ予ハ筆ヲ茲  
ニ擱キテ更ニ論及セサルヘシ

第二十二回 裁判權ノ設立ハ第二朝ノ滅亡

前ニ在ルヲ論ス

論者曰ク第二朝ノ騷亂ニ乘シテ受封ノ諸臣ハ領主ノ  
裁判權ヲ僭奪セリト事實ヲ十分研究スルヲナク尋常  
一般ノ考案ヲ下ス人ハ何故ニ封臣カ裁判權ヲ掌握ス  
ルニ至リシヤ更ニ其ノ來歴ヲ察セス直ニ封臣ハ曾テ  
之ヲ所有セシヲナシト容易ニ断言スルニ至ルヘシ抑

モ裁判權ハ當初設定ノ制度ニ由來スルモノニシテ決  
シテ封臣ノ僭奪ニ淵源セス又王室ノ陵夷ニ関涉セサ  
ルナリ

巴威畧人ノ法律ニ曰ク凡ソ自主民ヲ殺スモノハ其ノ  
親戚ニ私和金ヲ納ムヘシ若シ親戚アラサレハ國公或  
ハ死者カ存生中ニ保護ヲ加ヘタル人ニ納ム可シト據  
此觀之人民ハ自己ノ所有地ノ爲メニ其身ヲ他人ノ保  
護ニ托セシヲ明白ナリ

阿列曼人ノ法律ニ曰ク奴隸ヲ掠奪サレタルモノハ右  
盜人ノ君長ニ控訴シテ私和金ヲ要ノ得ヘシト  
チルデバルトノ制令ニ曰ク若シ百夫長已カ属下ニア

ラサル組合或ハ朕カ忠義アル封臣ノ領地内ニ於テ盜賊ヲ看出スヲアルモ之ヲ追攘セサレハ其ノ責ニ任セサル可ラス然ラサレハ誓詞ヲ立テ一身ノ潔白ヲ証明スルヲ要スト據此觀之百夫長ノ支配地ト封臣ノ領地ニ差異アルカ如シ

伊多利王百賓カ佛朗克人并ニ倫巴多人ノ爲メニ制定セル憲法ニ曰ク凡ソ裁判ノ執行上ニ私曲ヲ挾ミ或ハ之ヲ遲滯セシムル守令其他王室ノ官吏ハ罰鍰ヲ納ムルヲ免ル可ラス而メ若シ佛朗克人又ハ倫巴多人ノ封田ヲ所有スルモノ裁判ヲ執行スルヲ欲セサルハ則チ其ノ地方ニ在ル裁判官ニ於テ之カ執行ヲ停止

シテ右裁判官ナリ若クハ王室ノ理事官ナリ之ニ代リテ處辨スヘシ

甲列曼帝ノ集會法例ニ據レハ國王ハ每地方ヨリアレダヲ徵征セシテ曾テ無シ又該帝カ議定セル他ノ集會法例ニ據リテ封田ノ法律及ヒ裁判廳ノ既ニ設立セシトヲ見ルヘシ路易王第一世ノ集會法例ニ若シ封田ノ所有主裁判ヲ執行セス或ハ之カ執行ヲ妨クルハ王室ノ理事官ハ随意ニ其ノ家居ニ留宿シテ裁判執行ノ完結スルヲ待ヘシト議定セリ茲ニ又禿王甲列ノ集會法例ニ則テ視ルニ其ノ八百六十一年ノ議定ニ係ルモノニ於テハ裁判ノ區域ヲ定メテ裁判官及ヒ屬吏ヲ配

置セシヲ知リ其ノ八百六十四年ノ議定ニ係ルモノ  
ニ於テハ王室直隸ノ地方ト私人ノ領地トヲ區別セシ  
ヲ知ルヘシ  
封田ハ原ト勝國ノ人民カ互ニ土地ヲ分割シテ領有ス  
ルニ成ルモノナレハ之ヲ賜與シタル券書ノ類更ニア  
ルヲ無シ故ニ封田ニ裁判權ヲ附屬セシメタルハ當  
初ノ契約アリテ以テ之ヲ證明スル能ハスト雖凡既ニ  
封田ヲ確定シテ世襲ノ制ト爲スヲ記載スル集會法  
例ニ裁判權ノ制定アルヲ見レハ則チ断シテ裁判權ハ  
封田ニ附着シテ其ノ重要ナル特准ノ一ニ居ルト謂ハ  
サルヲ得ス

僧徒カ其ノ領内ニ世襲ノ裁判權ヲ執行スルヲ記載  
スル文書ハ有土ノ候伯カ其ノ封地内ニ於テ執行スル  
所ノ裁判權ヲ証明スルモノヨリ居多ナリ然ル所以ノ  
理由ニ條アリ其一ハ今日ニ保存スル所ノ文書ハ大抵  
僧侶カ其ノ寺院ノ用ニ供スルカ爲メニ輯集セシモノ  
ニ係リ其二ハ寺院世襲ノ領地ハ原ト特別ノ贈賜ニ屬  
シ且當時ノ制度上ニ於テ變則ニ係ルヲ以テ故ラニ准  
許狀ヲ與ヘサル可ラス然ルニ封建ノ候伯ニ賜フ所ノ  
土地ハ已定ノ政法ニ出ルヲ以テ之カ爲メニ准許狀ヲ  
請求スルヲ要セス況ヤ之ヲ保存スルニ於テヤセン  
ト、マウルノ傳中ニ見ルカ如ク國王ハ往々其ノ執ル所

ノ笏ヲ舉テ土地ヲ賜フヲ表示スルニ止マルヲアリ  
然レ氏マルキユルフスノ第三例規集成ニ據リテ諸免  
除ノ特准并ニ裁判權ハソノ設立以來遂ニ僧俗通用ノ  
モノタルヲ証明スルニ足レリ格羅達利王第二世ノ  
憲法モ亦タ然リトス

第二十三回

アツベド、ボスノ著述ナル高盧  
地方佛人ノ建國紀ノ大意ヲ論  
ス

予ハ此ノ一卷ヲ畢フルニ先テアベド、ボスノ著述ニ向  
テ二三ノ駁撃ヲ試ムルモ敢テ不當ニアラスト信ス何  
トナレハ予カ意見ハ常ニ氏ノ説ニ反シテ氷炭相容レ

サルヲ以テ若シ氏ノ説ヲシテ事實ヲ得タリトスル氏  
ハ予カ意見ハ必ス誤謬タルヲ免レサレハナリ

氏ノ論説ハ文辭ノ巧妙ニ賴リテ始終揣摩ノ説ヲ逞ク  
シ証據益々シキニ從テ益々事實ヲ捏造セリ之ヲ要スル  
ニ無量ノ推測ヲ將テ主義ト定メ一ノ推測ヨリ他ノ推  
測ヲ續釋シテ結果ト爲スカ故ニ其ノ筆力以テ衆人ヲ  
瞞欺スルニ足レハ讀者ハ漸ク當初ノ疑念ヲ忘失シテ  
之ヲ信受スルニ至ル如フルニ淹博ナル學識ヲ恃テ文  
辭ヲ修飾スルニ依リテ讀者ノ心目ヲ眩シテ岐路ニ迷  
惑セシム况ヤ考證多端滔々トシテ罄キサレハ誰カ之  
ヲ觀テ一ノ事實ヲモ看破スル無シト思フモノアラン



ヤ恰モ行程ノ長キヲ見テ既ニ所志ノ地ニ達セリト自  
ラ信スルカ如シ

然レモ吾人徹頭徹尾其ノ論說ヲ究ムルハ啻ニ土脚  
ノ巨像ヲ目撃スルニ過キス其ノ巨像ヲシテ非常ノ觀  
ヲ作サシムルハ全ク土脚ノ高ク之ヲ擎クルニ由テ然  
リアツバドボスノ著述果シテ確據ニ基クハ之ヲ証  
明スルカ爲メニ必スシモ三卷ノ長編ヲ草成スルヲ要  
ヒスシテ事實自ラ論題中ニ現出スヘシ更ニ關係ナキ  
事實ヲ搜索シテ諸方ニ彷徨セサルモ自ラ一ノ事實ヨ  
リ他ノ事實ヲ一轍ニ排列スルノ方便ト爲ル道理アル  
ヘシ我國ノ史乘法律必ス將ニ氏ニ向テ言ントス多ク

勞スルヲ休メヨ吾等ハ汝ノ証人ト爲リテ其ノ非ヲ  
示ス可シト

第二十四回 全上 著述ノ要領ヲ論ス

アツバドボスハ全カヲ竭シテ佛朗克人カ高盧ヲ克服  
セシトノ說ヲ排斥シテ我カ諸王ハ人民ノ招ニ應シテ  
君臨シ羅馬帝ニ代リテ其ノ大位ヲ嗣キ其ノ權理ヲ承  
襲シタリト主張セリ

斯ハ論說ハ之ヲ格羅味王カ長驅シテ高盧ニ入り其ノ  
城邑ヲ陷レ其ノ財貨ヲ擄掠スルノ時ニ用ウ可ラス又  
之ヲ羅馬ノ將軍シアダリウスヲ破リテ其ノ防守セル  
地方ヲ畧取セルノ時ニ用ウ可ラス然レハ氏カ云フ處

ハ格羅味王既ニ兵力ニ仗リテ殆ト高盧ノ全部ヲ拘ヘタル後人民ノ歸順ニ由テ撰舉サレテ一統ノ君位ニ登リシ時ノミヲ指スナル可シ而メ其ノ文勢ヲ玩味スレハ人民カ格羅味王ニ歸順セリト謂フヲ以テ未タ盡クセリトモス必ス人民ノ勸進ニ依リテ來臨セルノ意アルカ如シ果シテ然ラハアツベドボスニ於テハ必ス先ツ人民カ羅馬ノ羈軛ニ倦ミ或ハ已カ固有ノ法律ヲ奉スルヲ好マス寧口格羅味王ニ降リテ其ノ治權ニ服従スルニ若カサル所以ヲ証明ヒサル可ラス氏ノ說ニ據レハ高盧部中未タ蕃民ノ冠ヲ被ムラサル地方ニ住居スル羅馬人ニ二類アリ其一ハアルモリカン聯邦

ニシテ外ハ蕃民ノ入寇ヲ防キ内ハ已カ固有ノ法律ヲ以テ自治ノ政ヲ爲サント欲シテ朝廷派遣ノ官吏ヲ拒ミタル人民是レナリ其二ハ舊ニ仍テ依然羅馬人ノ政令ニ服従スルモノ是レナリアツベドボスハ其ノ格羅味王ヲ招キタルハ果ノ朝廷ニ服従スル所ノ羅馬人ニ係ルヲ確証ヲ明示シタルカ決シテ之アラス又之ヲ迎請シ或ハ盟約ヲ締ヒタルハ果メアルモリカン聯邦タルヲ証明シタルカ決シテ之アラス氏ハ此ノ聯邦ノ果シテ何處ニ存立セシカヲ証示スルヲ能ハス況ヤ其ノ興廢存亡ヲ告クルニ於テヤ氏ハ自ラヲノリウス帝ヨリ格羅味王ノ建國ニ至ルマテ事實ヲ搜索シテ

遺サスト稱シテ縷々論述シ其ノ精細實ニ驚ク可シト  
 雖氏奈何セン古人ノ書ニ曾テ此聯邦ノ踪跡ヲ視ル可  
 ラサルヲ無用ノ辨ト云フヘシ蓋シゾジームスノ著書  
 ニ由リテヲノリウス帝ノ治世ヨリアルモリカノ地方  
 及ヒ高盧ノ諸部カ羅馬ニ叛キテ一種ノ共和邦ヲ創立  
 セシヲ証示スルト及ヒアルモリカ人カ特殊ノ聯邦  
 ヲ成シテ之ヲ格羅味王ノ征討マテ連綿保續シタルヲ  
 証示スルトハ霄壤ノ差アリテ全ク別事ニ属スルヲ  
 顧ミス氏ハ唯々我カ説ヲ維持センカ爲メ之ヲ一渾  
 シテ眞確ノ証據ニ供セリ且又吾人戰勝ノ君カ初メテ  
 人ノ國ニ入ルヲ視ルニ先ニ兵力強威ヲ以テ殆ト一國

ヲ壓服シ而ノ後全國一統ノ君權ヲ握ルニ外ナラス史  
 乘中故ヲニ其ノ成功セル方術ノ如何ヲ記スナシ然  
 レハ事ノ終焉ハ創始ノ時トソノ揆ヲ一ニスト信スル  
 モ敢テ不可アラサルヘシ  
 既ニ此ノ一點ニ於テ氏ノ破綻ヲ看出スハ全体ノ論  
 趣忽チ地ニ墜ツヘク而メ氏カ之ヲ主義ト認メテ以テ  
 高盧ハ佛朗克人ニ征服サレシヲ無シ佛朗克人ハ羅馬  
 人ニ請招サレシヲ續繹シタル論題容易ニ摧破スル  
 ヲ得ヘシ

氏ハ復タ格羅味王カ羅馬ノ官爵ニ叙セラレタルヲ以  
 テ己カ主義ノ証據ト爲シ且頻リニ該王カ其父チルパ

リツクニ繼テ制軍ノ重職ニ任セシヲ主張スト雖此ノ官爵ハ該王ノ自ラ叙任セシモノニ過キス夫ノ氏カ論基ト爲セルアスレミキウスヨリ格羅味王ニ贈レル書簡ノ如キモ該王ノ即位ヲ祝賀スルニ止マリテ更ニ他意アルニ非サルヲ明カナレハ之ニ文辭外ノ趣意ヲ附會ス可ラス

格羅味王ハ晩年ニ至テアナスタシウス帝ヨリ統領ノ一官ニ拜セラルレ氏其ノ在職僅カ一年ニ出テサレハ朝廷ヨリ更ニ何等ノ威權ヲモ受領セサルヤ知ル可シ又氏ハアナスタシウス帝カ或ハ右敕書ヲ以テ格羅味王ヲ同時ニ高廬ノ提督ニ補セシヲ事實ニ近シト云

ハ氏予ハ之ニ反シテ其ノ然ラサルヲ以テ事實ニ近シトス若シ夫レ甲乙二人アリテ一個無據ノ事實ヲ爭論スルハ可否相半シテ固ヨリ孰レヲ正説ト定ム可ラス然レ氏予ハ殊ニ一理ノ之ヲ否ムヘキアリ何トナレハグレゴリーノ史記ヲ涉獵スレハ其ノ統領職ニ論及セシ一端ニ止マラサレ氏絶テ一言ノ提督ノ事ヲ記スヲナシ今氏ニ一步ヲ讓リテ提督ニ任セシヲ實事ナリトスルモ在職ノ間ハ僅カニ六月ニ過キサル可シ而メ格羅味王ハ統領職補任ノ後一年半ヲ經テ卒シタレハ提督ヲ以テ世襲ノ職ト爲スタ得サルヘシ之ヲ要スルニ其ノ統領氏ノ説ニ所謂提督職ヲ實授サレタル

時ハ既ニ該王カ佛國一統ノ君トナリテ威權確立セル  
ノ後ニ在リ

アツベドボスカ據リテ以テ第二ノ要塞ト爲スモノハ  
即チ惹斯的居安帝カ格羅味王ノ諸子諸孫ノ爲メニ高  
廬部ノ政權ヲ拋棄セシ一事ナリ此ノ事ニ就テ予ハ大  
ニ論辯スル處アラントス抑モ佛朗克族ノ諸王カ羅馬  
ノ朝威ヲ畏敬セシヤ否ヤハ其ノ盟約ヲ履行セル狀況  
ヲ觀テ判定スルヲ得ヘシ加フルニ佛朗克族ノ諸王ハ  
既ニ高廬ノ君長ト爲リ兵及ニ血ラスシテ全部ヲ版圖  
ニ收メタレハ羅馬帝ハ既ニ佛國ノ境内ニ寸壤尺地ヲ  
モ有スルヲナク帝國ノ西部ハ曩キニ滅亡シテ羅馬ノ

封疆ニアラス東部ト雖モ高廬地方ニハ政令絶テ行ハ  
レス徒ニ西帝タルノ聖器ヲ擁スルノミ而メ佛朗克人  
ハ既ニ立君政ノ基ヲ立テ建國ノ憲典ヲ制シ國民并各  
人種交際ノ權理法律ヲ定メ之ヲ典籍ニ筆記シタリ然  
レハ則チ外國ニ居テ實權ナキ羅馬帝カ既ニ確立セル  
政府ニ向テ政權ヲ拋棄スルハ己ニ權理ヲ有スルモノ  
ニ權理ヲ與フニ當リテ洵トニ謂レナキトニ非サルヲ  
得ンヤ

アツベドボスカ彼ノ亂世ニ際シテ勝國主ニ諂媚スル  
爲メニ發セル僧侶ノ說ヲ列述セシハ果シテ何等ノ意  
見ナルカ抑モ諂諛ノ言ハ之ヲ作スモノ、惡德ヲ暴白

スルノ外何等ノ意義ヲモ含蓄セサルナリ辯論詩賦ハ  
唯タ其ノ學術ノ巧妙ヲ賞美スルノミニテ他ニ實用ス  
スル所ナシグレゴリーノ史記ニ格羅味王カ曾テ刺客  
ヲシテ人ヲ暗殺セシメタルヲ論スル後ニ王ハ正道  
ヲ蹈ムヲ以テ上帝曰ニ仇人ヲ捕ヘテ之ヲ足下ニ投セ  
リト言フニ感シテ其ノ説ニ左祖セント欲スルカ誰ア  
リテ僧侶カ格羅味王ノ改宗ヲ喜ハス之ニ由リテ教門  
ノ利ヲ擢取セスト信スルモノアランヤ復タ誰アリテ  
高廬ノ人民カ止國ノ慘苦ヲ嘗ノ羅馬ノ政府カ佛朗克  
人ノ威權ニ屈服セシヲ疑フモノアランヤ佛朗克人  
ハ決シテ羅馬人ノ文物ニ豹變スルヲ好マス否ナ實

ニ豹變シ能ハス又狂暴ノ甚シキ佛朗克人ノ如キハ勝  
國ノ人ニ稀ニ見ル所ナリ然レモアツベドボスノ説ク  
處ヲシテ悉ク真確ナラシモンカ爲メニハ必ス佛朗克  
人ハ一ノ改革ヲモ羅馬人ニ施サハルノミナラス却テ自  
ラ羅馬人ニ變成セリト断言セサルヲ得ス  
予ヲシテ此ノ論者<sup>アツベ</sup>ノ顰ニ倣ハシメハ希臘人ハ  
曾テ波斯ヲ征服セシト無シト保証スルモ難キニアラ  
ス初メニ希臘諸府カ波斯人ト締ヒタル盟約ヲ記シ次  
ニ佛朗克人カ羅馬人ニ扶持セラレシカ如ク希臘人カ  
波斯人ノ給養ヲ仰キシヲ記スヘシ而シテ假令歷山  
帝カ波斯ノ境内ニ攻メ入り稚羅城ヲ圍テ之ヲ陷レ之

ヲ屠ルト雖凡其ノ事蹟ハ猶ホ格羅味王カ羅馬ノ將軍  
 イアグリウスヲ破ルニ異ナラサルヘク而モ猶太ノ教  
 主ハ来リテ歴山帝ニ面謁セシヲアリジエピトルハム  
 モン<sup>神</sup>名ノ託宣アリゴルシウムノト占アリ數多ノ府邑  
 ハ恰モ風靡シテ大旆ノ下ニ降參セリ顯官貴族ハ悉ク  
 忠誠ノ實効ヲ奏センカ爲メニ來會セリ歴山帝カ波斯  
 ノ衣冠ヲ服セシハ格羅味王カ統領ノ束帶ヲ着セシナ  
 リ波斯王太流士ハ全國ノ半ヲ割キテ帝ニ獻納セリ太  
 流士王ハ曾テ無道ノ君長ト目セラレタルモ章ニ刺客  
 ノ匕首ニ罹ラサリシナリ太流士王ノ母妻ハ歴山帝ノ  
 殂落ヲ聞テ悲歎セリクインチユス、クルチユス、アルリ

アン、プルタルキノ諸子ハ歴山帝ト同時ノ人ニ非サル  
 ナリ印刷術ノ發明アルニ由リテ吾人ハ斯ノ諸子カ未  
 タ記セサルヲモ知り得タリト苟クモ附會シテ説ヲ  
 成サハ斯ノ如ク無數ノ事實ヲ援キ来リテ以テ希臘人  
 カ波斯ヲ征服セサリシヲ証明スルニ足ル可シ是レ  
 乃チアツベ、ドボスカ著述セル佛人建國紀ノ体裁ナリ

第二十五回 佛朗克人ノ貴族ヲ論ス

アツベ、ドボスハ我カ王國建設ノ初ニ當リ佛朗克人中  
 唯タ一類ノ國士アルノミト主張セリ其ノ説ハ大ニ我  
 カ名門貴紳ノ血統ヲ毀傷セル而已ナラス併セテ夫ノ  
 禪讓相繼テ王國ニ君臨セシ所ノ三朝ノ家系ニ對シテ

モ亦不敬ノ言タリ右三朝ノ家系ノ高貴ナルハ決シテ  
時世ノ幽遠ニ由リテ湮滅セサル可シ上古ノ史ニ溯ル  
ルハ其ノ嘗テ民族タリシ時世ヲ知ルニ難カラス且チ  
ルデリツク、百賓、ヒウカベツト三朝ノ開祖ヲシテ貴胄  
ノ人タラシムル爲メニハ必ス羅馬人若クハ索遜人即  
チ亡國ノ人民中ニ就テソノ系譜ヲ索メサル可ラス  
氏ハ撒利律ヲ立論ノ根基ト爲セリ其ノ說ニ曰ク此ノ  
法律ニ據レハ佛朗克人ノ國士ニ二類アラサルハ極メ  
テ明カナリ其ノ証據ハ凡ソ佛朗克人ヲ殺スモノハ其  
ノ人品ニ拘ラス都テ二百スーハノ償金ヲ徵取サレタレ  
氏羅馬人中ニハ國王ノ賓客ト地主ノ納税人トノ三類ニ

分チ國王ノ賓客ニハ三百スーハノ償金ヲ納メ地主ニ  
ハ百スーハヲ納ムト斯ク償金ノ額數ニ多寡アルヲ以  
テ貴賤ノ別ヲ立テ以テ佛朗克人ハ唯ク一類ノ國士ニ  
止マリ羅馬人ハ三類アリト論セリ  
甚シキ哉氏カ自ラ誤謬ヲ覺リ能ハサルコト夫レ佛朗克  
人ノ羈軛ニ苦シム羅馬ノ紳士カ却テ勝國主タル佛朗  
克人ヨリモ更ニ多數ノ償金ヲ得テ而モ其ノ貴族武將  
ヨリモ一層尊榮ノ地位ヲ占ムルトハ万モ信ヲ措クニ  
堪ヘサル所ナリ抑モ氏カ勝國ノ人ハ自ラ甘シテ卑汚  
ニ處リ反テ亡國ノ民ヲ尊敬セリト信依スルハ何ノ見  
解アリテ然ルカ殊ニ氏ハ常ニ諸蕃民ノ法律ヲ引キテ



以テ國士ニ等級アリシヲ証明セシニ非スヤ然ルニ  
特リ此ノ通則ニ限リテ佛朗克人中ニ絶テ施行セスト  
断定スルハ深ク怪ムニ足レリ之ヲ要スルニ氏ハ宜シ  
ク自ラ謂フヘシ我ハ撒利律ノ文意ヲ誤解セリ之ヲ妄  
用セリト

撒利ノ法典ヲ一閱スルニ國王ノ封臣タル「アントラス  
チ」ヲ兇殺スルノ償金六百「スー」ニシテ國王ノ賓客  
タル羅馬人ハ其ノ半額三百「スー」ナリ又佛朗克人ノ  
平民ニハ償金二百「スー」ニシテ羅馬ノ平民ニハ半額  
百「スー」ニシテ納メ奴隸若クハ解放サレテ新タニ自主民  
ノ列ニ入りタル羅馬ノ納税人ニ至テハ僅カニ四十五

「スー」ニシテ納ムルニ過キス但シ第三類ノ人民(即チ新自  
主民)ハ論外ニ屬スルヲ以テ佛朗克人ノ奴隸若クハ解  
放サレテ自主民タルモノヲ殺セルノ償金ハ爰ニ贅述  
セス

氏ハ佛朗克人ノ第一類即チ「アントラスチ」ノ証例ヲ  
不言ニ付シ去リテ後二百「スー」ノ償金ヲ要スヘキ佛  
朗克ノ平民ト各異ノ償金ヲ要スヘキ三類ノ羅馬人ト  
ヲ比較シテ佛朗克人ハ一類ノ國士ニ止マリ羅馬人ハ  
三類アルノ説ヲ捏造セリ

「アントラスチ」ハ既ニ佛朗克人ノ國士ヲ一類ニ止マリ  
タリト偽説ヲ立ルカ故彼ノ不爾良人ノ如キハ我カ佛

國ノ一大部ヲ成スヲ以テ之ヲモ亦タ唯ク一類ノ國士ヨリ成レリト主張シテ恬然愧チサル可キ乎其ノ法典ニハ償金ヲ三等ニ分チテ第一ヲ不爾良人羅馬人ノ貴族第二ヲ中等ノ兩國民第三ヲ下等ノ人民ヨリ徵求セリ氏カ此ノ法律ヲ援カサルハ僥倖ト謂フヘシ見ヨ氏カ四方ヨリ駁撃セラレテ其ノ辨解ニ窮スル片ハ巧ニ遁辭ヲ設テ之ヲ廻避スルヲ若シ氏ニ向テ顯官侯伯并ニ貴族ノ事ヲ論スルモノアレハ是レ單ニ尊卑ノ禮ヲ示スニ止マリテ族類ノ貴賤ヲ別ツニアラス全ク儀法禮式ニ屬スルモノニシテ更ニ法律上ノ特准ニアラスト説キ去リ否ヲサレハ此輩ハ國王ノ議政官

ナリ或ハ此輩ハ羅馬人ナルヘシト曖昧ノ言ヲ放チ而メ尚ホ佛朗克人ニハ唯タ一類ノ國士アルノミト主張ス可シ或ハ反對ノ点ニ出テ氏ニ向テ佛朗克人ノ下等ニ居ルモノ、事ヲ告クレハ此輩ハ奴隸ニ屬セリト答ヘ即チ此意ヲ以テチルデバルト王ノ制令ヲモ解釋セリ予ハ姑ラク茲ニ一歩ヲ停メテ此ノ制令ノ精神ヲ究メント欲ス是レ我カ記者ハ二事ヲ証明センカ爲メニ特ニ此ノ制令ヲ援用シテ讀者ノ耳目ニ著明ナレハナリ即チ其一ハ諸蕃民ノ法律中ニ見ル處ノ償金ハ皆ナ肉刑ノ外ニ附加スル民事上ノ罰鍰ナリトノ説ニシテ此ノ説ニ從ヘハ古世ノ記錄ヲ一筆ニ抹殺セサルヲ得

ス其二ハ凡テ自主民ハ國王ノ親ヲ審理スル所ニ係ルトノ説ニシテ之ニ據ルモ亦タ當時ノ裁判章程ヲ知ルヘキ無數ノ文書論説ニ背馳スルモノナリ

右ノ制令ハ國民ノ集會ニ於テ議定セシモノナリ其文ニ曰ク裁判官ノ眼ニ大盜ト認ムル所ノモノ若シ「フランキユス」ヲユエライ「ト」ニ係ルハ國王ニ解送スルカ爲メニ之カ捕縛ヲ命ス可シト雖モ若シ更ニ微力ノ人即チ「デビリヲル」ペルソナト認ムルハ直ニ現場ニ於テ之ヲ縊殺スヘシトアツベ「ト」ボスノ解義ニ據レハ「フランキユス」ハ自主民ニシテ「デビリヲル」ペルソナハ奴隸ナリト予ハ「フランキユス」ノ解義ヲ後ニシテ先ツ「更

ニ微力ナル人」ノ語意ヲ講究セントス夫レ如何ナル國語ニ拘ラス字義ヲ比較スルニハ必ス最大ノモノト之ニ亞テ一層小弱ナルモノト及ヒ最小ナルモノトノ三級ヲ立テサルハ無シ果シテ此ノ制令ノ精神ヲシテ單ニ自主民ト奴隸ノ二類ニ限ラシメハ直接ニ奴隸ノ字ヲ下シテ更ニ微力ナル人トハ記サ「ル」ヘシ據此觀之「デビリヲル」ペルソナハ奴隸ノ義ヲ含マスシテ奴隸ノ地ヲ出ル一等上位ノ人ヲ謂フナリ此ノ推測ヲシテ果シテ悞ナカラシメハ「フランキユス」トハ自主民ニアラスシテ更ニ有力ノ人ヲ指シテ爾カ云フナルヘシ此ノ字義アル所以ハ蓋シ佛朗克人ノ中ニモ自餘ノ人民ニ

比スレハ一層著大ナル權力ヲ有スルモノアリテ裁判官或ハ守令ノ力得テ責罰ヲ加ヘ能ハサルニ由テナリ此ノ鮮義ハ夫ノ罪囚ヲ國王ノ審庭ニ解送セラルヘキ人ト否ラサルモノトヲ區別スル許多ノ集會法例ト符節ヲ合スルカ如シ

テガンノ著書ナル路易王第一世ノ傳中ニ僧正輩カ此君ヲ弁髦視セルノ實因タルヲ記載シテ就中奴隸ノ出身ニ係リ或ハ蕃民ノ家ニ生レタル僧正ヲ以テ甚タシトセリテガン復タ該王ノ拔擢ニ由リテ奴隸ヨリ昇進シテ累リニレイムスノ大僧正ニ拜セラレタルヘツボニ謂テ曰ク帝ハ君ニ無限ノ恩典ヲ垂レテ其ノ代リ

ニ何等ノ報ヲ得タルヤ帝ハ君ノ地位ヲ進メテ自主民トナセ凡君ヲ貴族ニ封セサルハ蓋シ君ニ自主權ヲ與ヘタル上ハ更ニ貴族ノ爵位ヲ授クルヲ得サルカ故ナリ

アツベドボスハ恬トシテ斯ク明カニ二類ノ國士アルヲ証示スル文章ヲ顧ミス強テ辭ヲ成シテ此ノ文意ハ敢テ路易王第一世カヘツボヲ貴族ニ列スルヲ能ハサルヲ云フニ非サルナリヘツボハ己ニレイムスノ大僧正ニ補セラレテ人臣第一等ノ地ヲ占メ其躬ハ貴族ノ上ニ班セルカ故ナル可シト謂ヘリ此ノ文章ニ氏カ所言ノ意義アリトスルカ抑モ此ノ文章ハ僧侶カ貴族ノ

上ニ班スル論題ニ關係アリトスルカ予ハ之ヲ讀者ノ  
判断ニ任スヘシ氏ノ言ニ又曰ク此ノ文章ハ生来ノ自  
主民ニ貴族タルノ資格アルヲ示スモノニシテ當時  
普通ノ辭義ニ於テ貴族ト生来ノ自主民ハ唯タ其ノ名  
稱ヲ異ニスル而已ニテ實ハ一物ヲ指セリト果シテ然  
ラハ輒近我カ市人ノ中ニ貴族ノ資格ヲ得タルモノア  
ルニ因テ忽チ路王第一世ノ傳中ノ文ヲ取リテ此ノ  
輩ニ應用スヘキヤ氏ノ言ニ又曰ク或ハ恐ルヘツボハ  
佛朗克人ノ奴隸ニアラス乃チ人民ヲ數等ニ區別シタ  
ル索遜人又ハ他ノ日耳曼人ノ奴隸ナルヘシト果シテ  
然ラハ氏ノ言ニ「或恐」ノ一句アルニ因テ断シテ佛朗克

人ノ奴隸ニアラス乃チ人民ヲ數等ニ區別シタル索遜  
人又ハ他ノ日耳曼人ノ奴隸ナルヘシト果シテ然ラハ  
氏ノ言ニ「或恐」ノ一句アルニ因テ断シテ佛朗克人中一  
ノ貴族アラスト定メサルヲ得サレ氏ノ博學ナル曾  
テ斯ノ如ク「或恐」二字ノ用法ヲ悞リタルヲ無カル可  
予ハ復タテガンカ路王第一世ニ抗抵シタル諸僧正  
ヲ奴隸ノ出身ト諸蕃ノ人民トノ二類ニ區別シタルヲ  
見タリヘツボハ即チ奴隸ノ出身ニ属シテ蕃民ニアラ  
ス加フルニ奴隸ハ家族ヲ有セス從テ國民ノ稱ヲ下シ  
難ケレハヘツボノ如キ奴隸ヲ指シテ索遜人或ハ日耳  
曼人ト云フヲ得ス且ヘツボハ路王第一世ニ解放サ

レテ自主民ト爲ルモノナリ既ニ解放サレタル奴隸ハ  
主公ノ法律ヲ遵奉スルカ故ニヘツボハ佛朗克人ノ籍  
ニ入ルモノニシテ索遯人ニモアラノ日耳曼人ニモア  
ラサルナリ

以上論スル所ハ専ラ進攻ノ勢ヲ現シタレ是ヨリ方  
向ヲ轉シテ我カ防禦線ヲ固守スヘシ或ハ論駁スルモ  
ノアラン抑モ「アントラスチ」ノ一族ハ實ニ自主民ト  
相離レテ別類ヲナセリ然レモ封田ハ其ノ初メ君主ノ  
喜怒ニ任セテ與奪シ後ニ終身ノ受領トナリシカ故ニ  
當時固ヨリ世襲ノ封田ニ附着スヘキ特准アラス之ヲ  
以テ家系ノ高貴ナル憑據トナスヲ得スト此ノ駁論ハ

即チエム、デ、ワリラスヲシテ佛朗克人ニハ唯タ一類ノ  
國士アルノミトノ思想ヲ起サシメタルモノニシテアン  
ベドボス忽チ之ヲ借用シテ以テ縷々不當ノ辨論ヲ費  
シテ自說ノ撞着ヲ致セリ又萬一此ノ駁論ヲシテ理ノ  
當然ニ出ルトスルモアツベドボスノ說ニ非サルナリ何ト  
ナレハ氏ハ初ノ羅馬ニ三類ノ貴族アルヲ記シ而シテ  
國王ノ賓客ニ第一等ノ地位ヲ與ヘタレハ後ニ至リテ  
此ノ爵位ハ「アントラスチ」ヨリモ一層高貴ナル家系  
ヲ標示スルモノト云フヲ得サルヘシ予ハ直ニ之ニ答  
ヘテ「アントラスチ」即チ信任スヘキ人ハ其ノ封田ヲ  
持有スルカ爲メニ高貴ナルニアラス「アントラスチ」

即チ信任スヘキ人タルノ故ヲ以テ封田ヲ受領セリト  
 言ントス讀者試ニ開卷ノ初メニ論述セル處ヲ顧ミハ  
 最初此ノ貴族ハ後世ニ於ルト一樣ノ封田ヲ受領セサ  
 ルヲ見ルヘシ但シ此ノ封田ヲ受領セサレ他ニ一  
 種ノ封田ヲ所有セリ右封田ハ其人生レナカラニシテ  
 受領スルアリ或ハ時トシテ國民ノ集會ニテ賜與サル  
 、ヲアリ之ヲ要スルニ封田ヲ與フノ王室ノ利益タ  
 ルハ猶ホ貴族ノ之ヲ得ルノ利益タルニ齊シキヲ以テ  
 ナリ此ノ貴族ハ信任スヘキ人タル爵位ヲ帶フルト封  
 田ヲ受領スルカ爲ノニ國王ニ忠誠ノ誓ヲ爲スヘキ特  
 准アルトヲ以テ國士ノ上流ニ居レリ尚ホ第三十一卷

廿四回ニ於テ詳カニ自主民力此ノ特准ヲ享テ貴族ノ  
 列ニ准許サレタル情況ヲ記スヘシゴントラム王及ヒ  
 其姪ノチルデベルトノ時ニハ曾テ之ヲ許セシヲ無ク  
 甲列曼帝ノ世ニ至リ之ヲ許セルノミ但シ該帝ノ御宇  
 ニハ自主民ニ封田ヲ受領セシメタリト雖モテガシノ  
 説ニ見ルカ如ク解放サレテ新タニ自主民ノ籍ニ入り  
 タルモノニ之ヲ許サルヤ明カナリアツベドボスハ  
 佛國古代ノ貴族ヲ説明セシト欲シテ却テ讀者ニ土耳  
 其ノ事態ヲ指示セルニ似タリ氏ハ復タ説ヲ設テ路易  
 王第一世及ヒ禿王甲列ノ世ニ貴族カ不平ヲ鳴ラセシ  
 カ如ク土耳其人中ニモ卑賤ノ人ニシテ一朝高位貴爵

ニ昇進スルヲ怨望スルモノアリト爲スカ甲列曼帝ノ  
世ニハ常ニ貴族ノ新旧ニ應シテ禮遇ヲ殊ニシタルヲ  
以テ絶テ此ノ如キ怨言ヲ聞カサレモ路易王第一世及  
ヒ禿王甲列ニ至テハ曾テ先例ニ遵從セサリシナリ  
讀者須ラクアツベドボスニ向テ秀美ナル著作ノ爲メ  
ニ厚ク謝セサルヘカラス實ニ氏ノ功績ヲ見ルヘキモ  
ノハ此等ノ著作ニアリテ佛蘭西建國史ニアラサルナ  
リ而ノ氏カ失錯ニ陷リタルハ自己ノ論ヲ放下シテボ  
ウレインウイルリールスノ糟粕ヲ嘗メタルニ由レリ  
以上層々論駁シ来リ茲ニ至テ之ヲ一言ニ約ス可シア  
ツベドボスノ如キ大家先生ト雖モ尚ホ見解ニ誤アル

ヲ免レス況ヤ後生予ノ如キニ於テヲヤ三思シテ筆ヲ  
執ラサル可ラス

萬法精理卷之三 畢



明治八年十一月廿八日版權免許

繙譯並出版人 何禮之

東京富士見町四丁目十一番地

馬喰町二丁目

島村利助  
芝太神官前三島町

山中市兵衛  
日本橋通三丁目

丸家善七  
南傳馬町二丁目

穴山篤太郎

發兌  
書林